

みんなの こえで みんなを げんきに

● コロナ×こどもアンケート

コロナ×こどもアンケート 第7回調査 報告書

2022年 3月 23日

修正：2023年 12月 18日



国立研究開発法人
国立成育医療研究センター
National Center for Child Health and Development



コロナ×こどもアンケート報告書

はじめに.....	3
調査について.....	4
調査結果.....	6
基本属性.....	6
回答者人数と回答日.....	6
居住地.....	7
学年.....	8
性別.....	9
きょうだい.....	9
回答した保護者の属性.....	10
家庭の状況.....	11
同居.....	11
経済状況.....	12
保護者の就労状況.....	13
新型コロナウイルスによる環境の変化.....	14
登校の様子.....	15
0～1歳児のお子さま・ご家庭の様子.....	16
お子さまの生活・様子.....	16
ご家庭での悩み.....	18
イベント開催.....	19
こどもたちの生活の質.....	22
小学生以上（こども回答）.....	22
こどもたちのこころの状態.....	26
2歳以上（保護者回答）.....	26
小学1-3年生（こども回答）.....	32

小学4年生以上（こども回答）	33
援助希求	40
困った時、悩んだ時（小学4年生以上 こども回答）	40
お子さまに心配な様子がある時（小学生以上 保護者回答）	43
子どもの権利 4コマ漫画.....	45
こどもたちの声	46
こどもの意見は反映されているか	46
大人たちに言いたい・伝えたいこと	47
大人たちに望むこと	49
保護者様（回答者）とお子さまとの関わり	53
好ましい関わり.....	53
保護者のメンタルヘルス.....	56
こころの状態	56
保護者のストレスケア.....	57
自由記載	58
こどもたちの声.....	58
保護者の声	60
終わりに.....	63

はじめに

【コロナ×こどもアンケート】は、国立成育医療研究センター社会医学研究部・こころの診療部を中心とした研究者・医師ら有志が実施しているオンライン調査です。コロナ禍におけるこどもと保護者の生活と健康の現状を明らかにすること、問題の早期発見や予防・対策に役立てることを目的として行っています。これまでに全国のたくさんのこどもたちや保護者の方々からご協力いただきました。第1回調査（2020年4～5月実施）では、初回の緊急事態宣言下での生活の様子やこころの状態、困りごとなどが明らかになりました。第2回調査（2020年6～7月実施）では、学校再開後、感染防止のための新しい生活様式の中での、こころの状態やスティグマ（コロナに関連した差別や偏見）に重点を置きました。第3回調査（2020年9～10月実施）では、第1回から継続して尋ねているこころの状態のほか、コロナ前後での生活の変化やストレス対処法、家庭や学校で子どもの権利が守られているかなどに着目しました。第4回調査（2020年11～12月実施）では、うつ症状を中心としたメンタルヘルスに焦点を当てました。第5回調査（2021年2～3月実施）では、コロナ禍1年をふり返る内容を幅広く尋ねました。第6回調査（2021年9月実施）では、こどものワクチン接種やオンライン授業に対する意見なども尋ねました。

今回の第7回調査は、新型コロナウイルス第5波が落ち着いた後、第6波の直前にあたる2021年12月に実施しました。日本では全国的に新規感染者数が少なく、一方で欧米諸国では感染者数増加の兆しが見られていた時期です。第7回調査は、こどもたちのメンタルヘルスなどこれまで継続して尋ねてきた質問のほかに、特に第4回調査で尋ねたこどものうつ症状を、より掘り下げて尋ねました。具体的には、典型的なうつ症状を呈しているこどものエピソードを読んでもらい、その子の状態についてどう思うか（助けが必要かどうか）、また、もし自分がその子と同じ状況だったらどうするか（相談するかどうか）、それはなぜか、を尋ねました。また、特にお子さまの誕生以降ずっとコロナ禍での子育てをしている、乳幼児のお子さまの保護者の方に、こどもや家庭のことについて詳しく尋ねました。

本報告書では、第7回調査の全体の結果をご報告いたします。ほかの回の調査と同様、日本のこどもたち・保護者の方々の全体像を正確に表せているわけではありません。それでも、回答くださった方々の声、SOSをみなさまと共有させていただくことで、まだ続くコロナ禍でこどもたちのために個人や社会として何ができるかを考えるきっかけになれば幸いです。

2022年3月23日

国立成育医療研究センター コロナ×こども本部 一同
co_kodomo@ncchd.go.jp

調査について

- 実施主体
国立研究開発法人 国立成育医療研究センター コロナ×こども本部
(http://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19_kodomo/index.html)
- 実施時期
2021年12月8日～2021年12月31日
- 対象
 - (1) 小学1年生～高校3年生（相当）のこども
 - (2) 0歳～高校3年生（相当）のこどもの保護者
- 実施方法
インターネット調査
- リクルート協力団体
公益社団法人日本小児科学会
公益社団法人こども環境学会
日本学校ソーシャルワーク学会
公益社団法人日本小児保健協会
社会福祉法人日本保育協会
東京都
大田区教育委員会（東京都）
西宮市教育委員会（兵庫県）
和光市教育委員会（埼玉県）
東京大学大学院教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター（Cedep）
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン
公益財団法人ベネッセこども基金
公益財団法人川野小児医学奨学財団
Yahoo!きっず（ヤフー株式会社）
産婦人科オンライン・小児科オンライン（株式会社 Kids Public）
第一生命保険株式会社
認定 NPO 法人フローレンス
特定非営利活動法人キッズデザイン協議会
全国不登校新聞社
NPO 法人ファザーリング・ジャパン

- 調査概要
 - ・ こどもが未就学児の場合には、保護者に回答を依頼した。
 - ・ こどもが小学生以上の場合には、こどもだけ、保護者だけ、あるいはこどもと保護者両方に回答を依頼した（回答者が選択した）。
 - ・ こどもと保護者両方の場合には、はじめに保護者が承諾、こどもが回答し続いて保護者が回答した。
 - ・ 家族構成など共通する部分は保護者だけに回答を依頼した。
 - ・ こどもを対象とした調査票は年齢により3段階のふりがなレベルを設定した。
 - ・ 調査内容は、基本属性、家庭の様子、生活の様子、コロナによってこどもや家庭に起きたこと、ストレス症状、健康・生活の質（Quality of Life）、メンタルヘルス、抑うつ症状、援助希求、大人がこどもの気持ちや考えをきくには、ペアレンティング、保護者のメンタルヘルスなど。

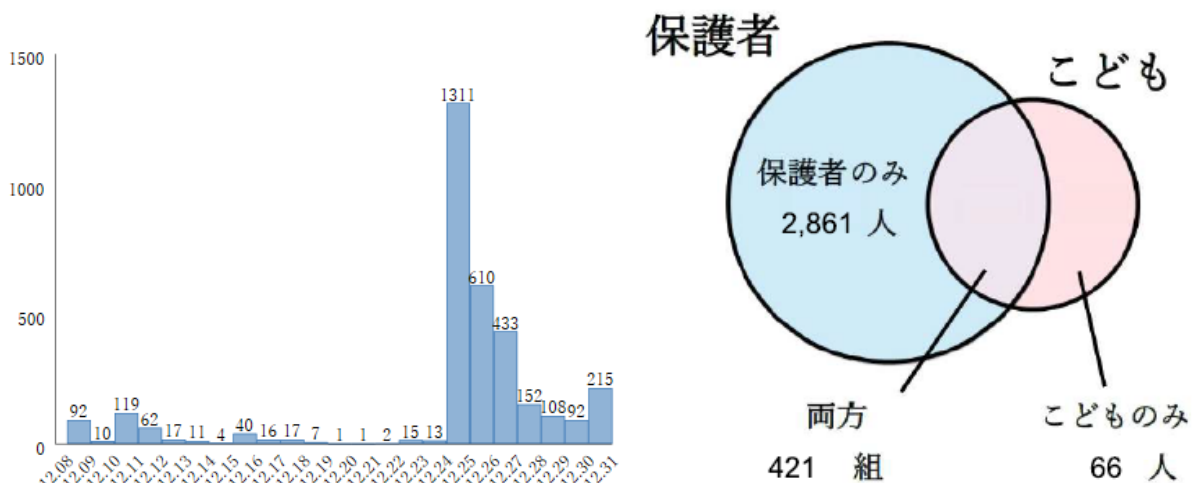
- 調査財源
 - ・ 科学技術振興機構 戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）「新型コロナウイルス（COVID-19）による青少年の生活と健康への影響およびその関連因子に関する日欧比較研究」
 - ・ 公益財団法人小児医学研究振興財団 令和2年度小児の社会学的研究（疫学・統計含む）助成金「新型コロナ流行に伴うこどもの精神的健康に関する全国調査」

調査結果

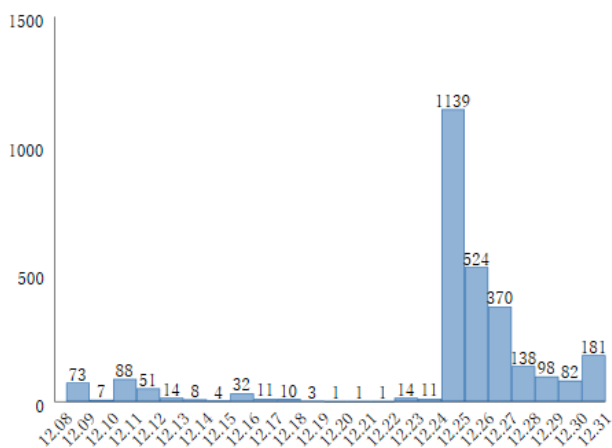
基本属性

回答者人数と回答日

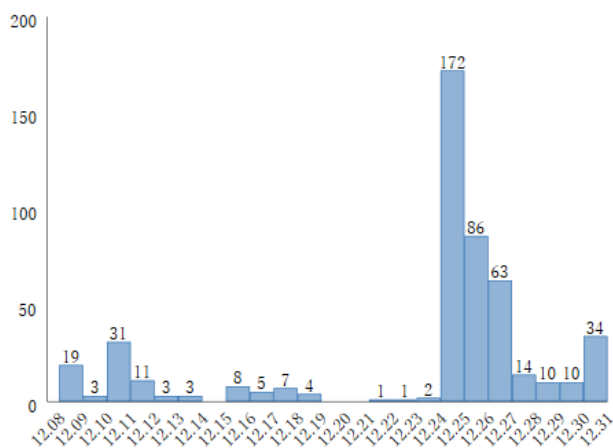
総回答数（保護者のみ・両方・こどものみ） 3,348 回答



保護者回答数（保護者のみ） 2,861 回答



子ども回答数（こどものみ・両方） 487 回答



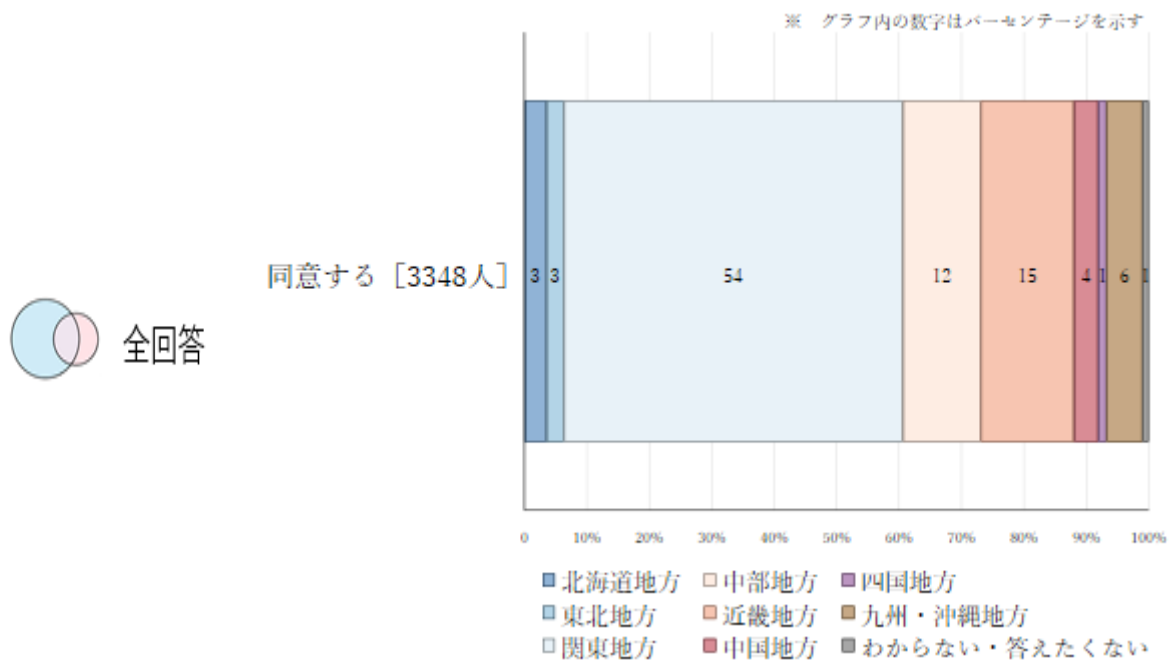
- 保護者 3,282 人、子ども 487 人、あわせてのべ 3,769 人から回答を得た。

- 保護者と子ども両方での回答は、421 組であった。

以下、**子ども** は子どもによる回答、**保護者** は保護者による回答を表す。なお、回答中断などにより質問によって回答者数が異なることがある。

居住地域

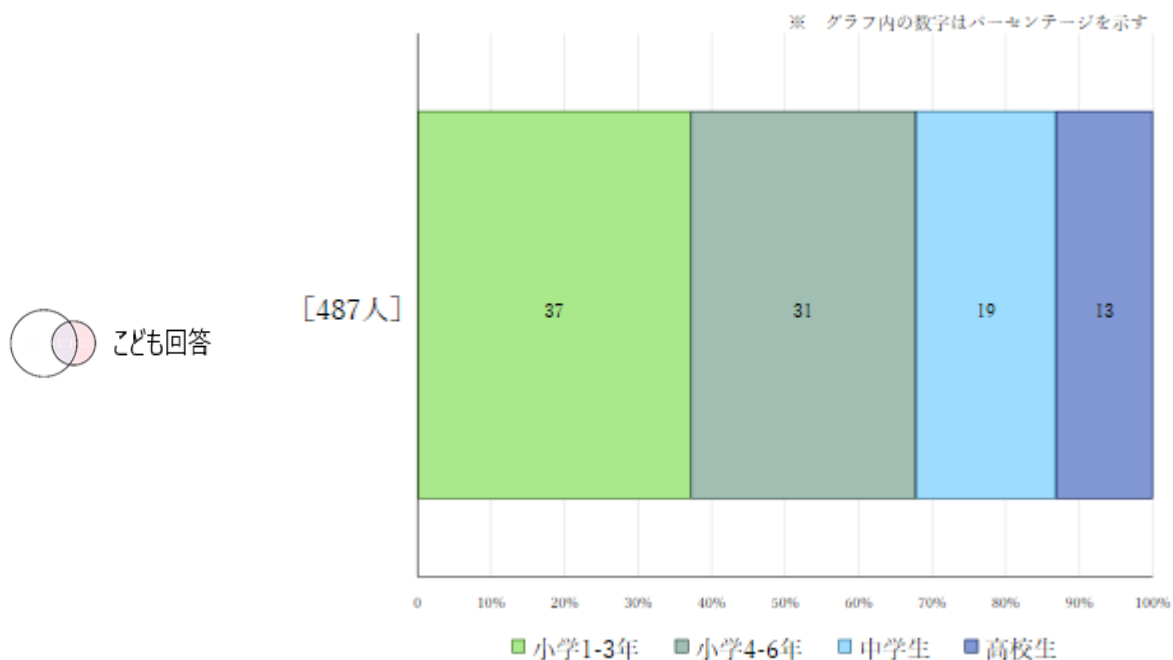
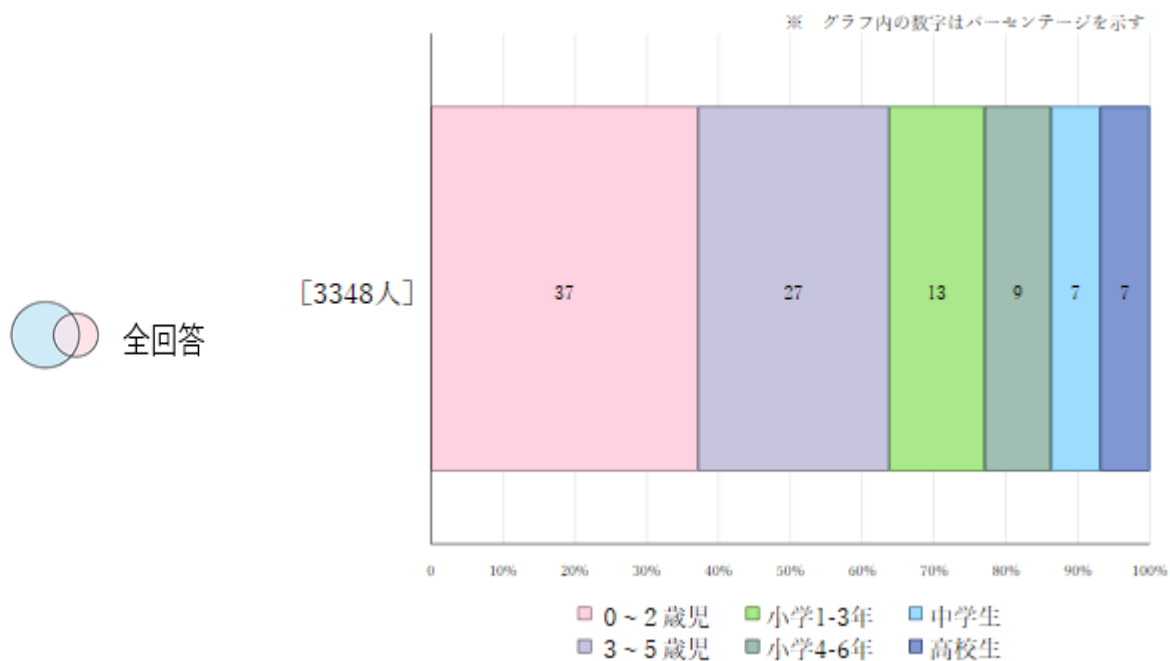
お住まいの都道府県を選んでください。



- ・ 54 %が関東地方在住であった。

学年

お子さまの学年を教えてください。（2021年4月2日時点での年齢・学年を選んでください。）

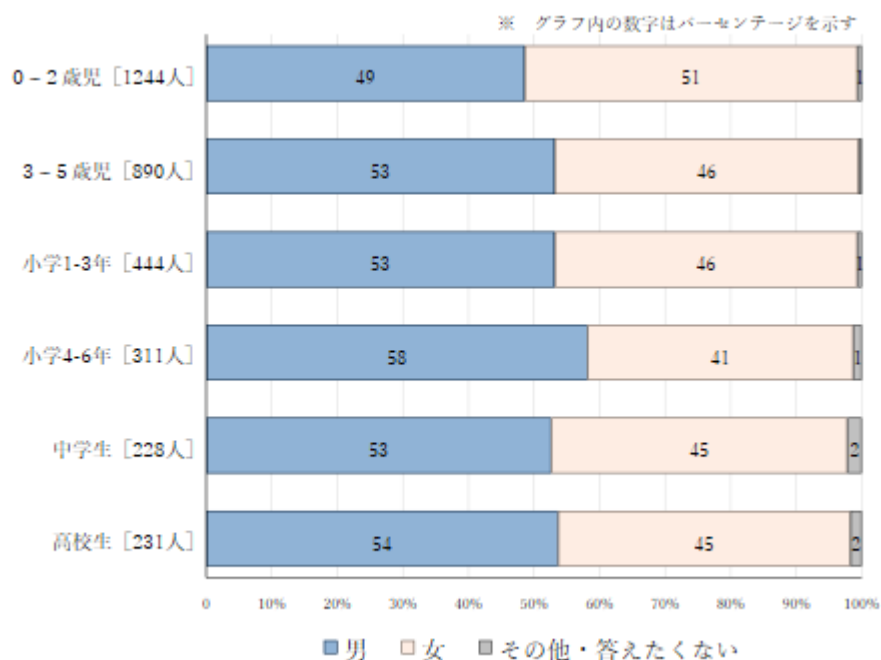


・こどもによる回答の68%が小学生であった。

性別

お子さまの性別を教えてください。

 全回答

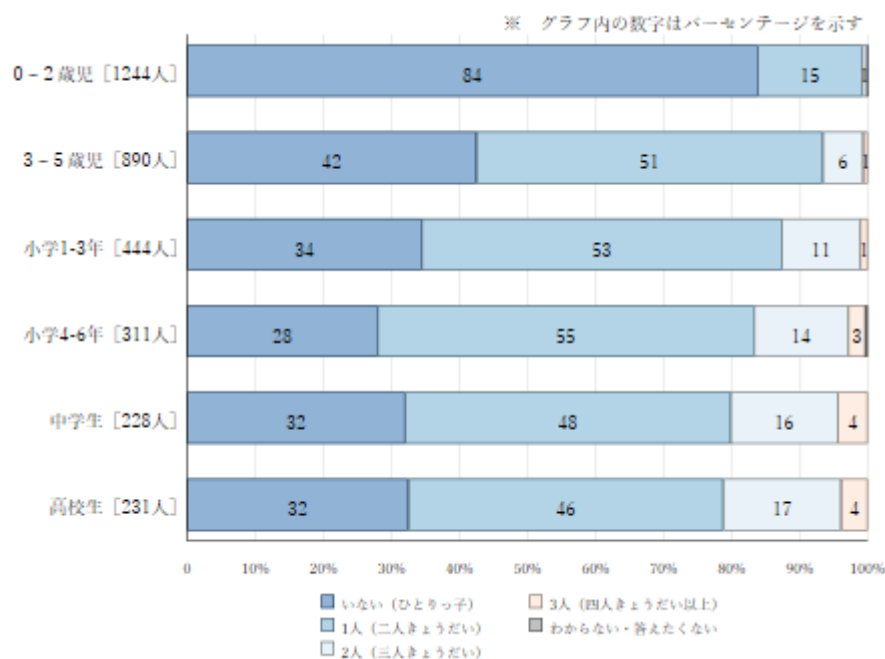


・男の子は52%、女の子は47%であった。

きょうだい

お子さまには兄弟姉妹がいますか？いる場合はお子さま以外のごきょうだいの人数を教えてください。

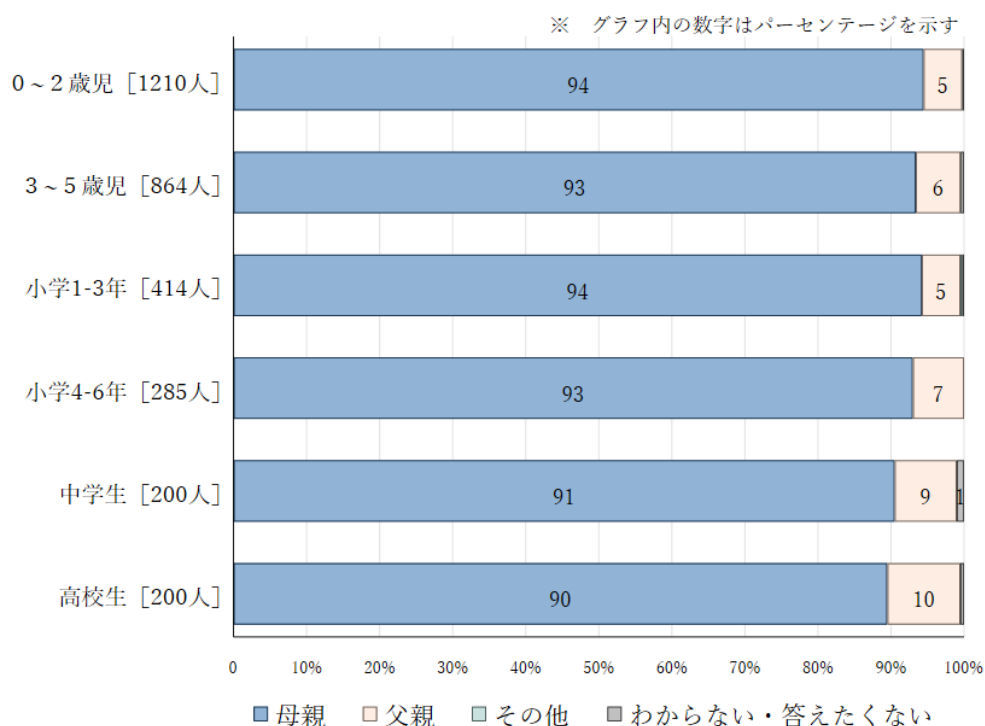
 全回答



・1人以上きょうだいがいるのは、0~2歳児は16%、それ以上では64%であった。

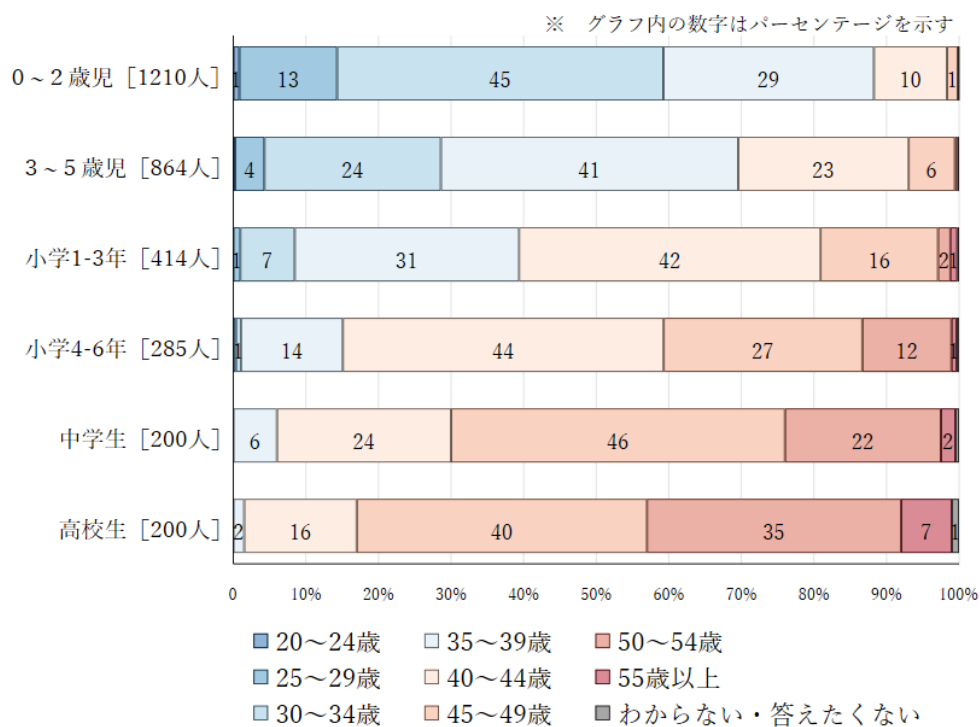
回答した保護者の属性

保護者 お子さまとの関係を教えてください。



・母親の回答者が93%であった。

保護者 あなた（回答してくださっている保護者の方）の年齢を教えてください。



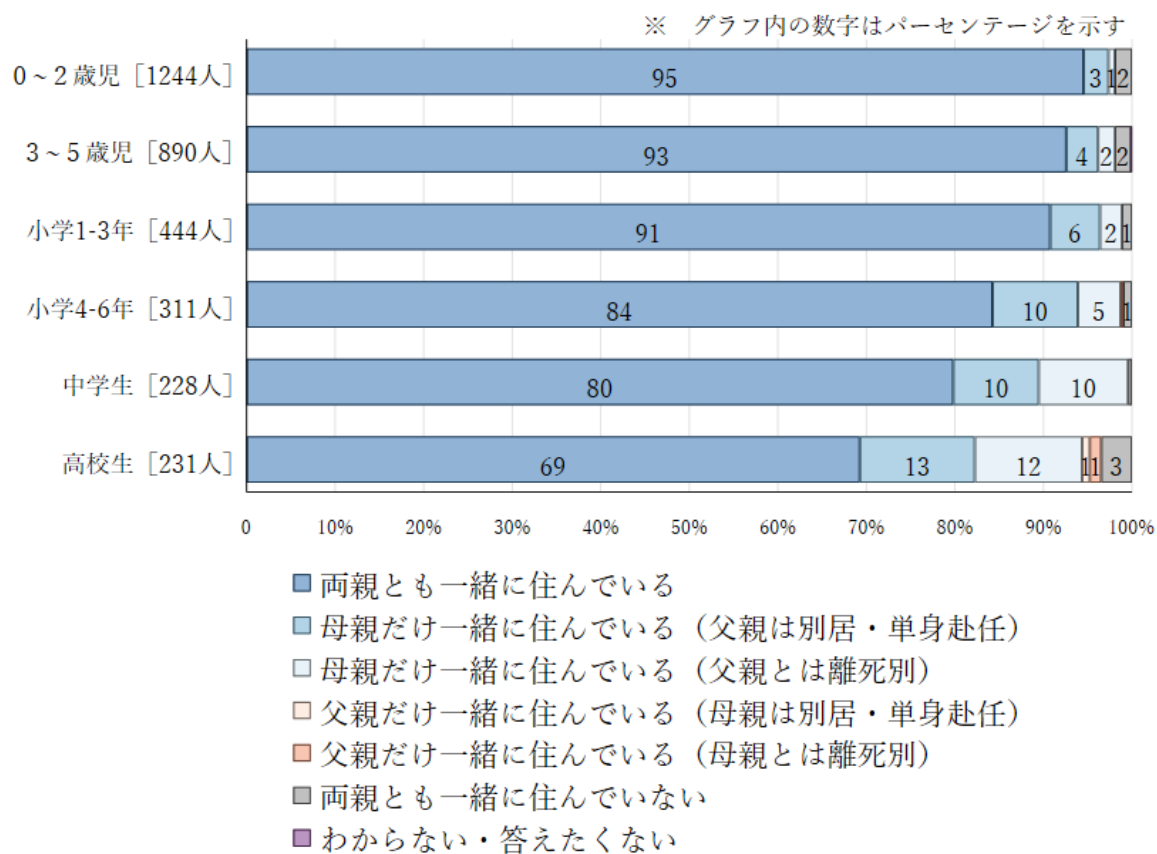
・保護者の年齢は、20代は7%、30代は53%、40代以上は40%であった。

家庭の状況

同居

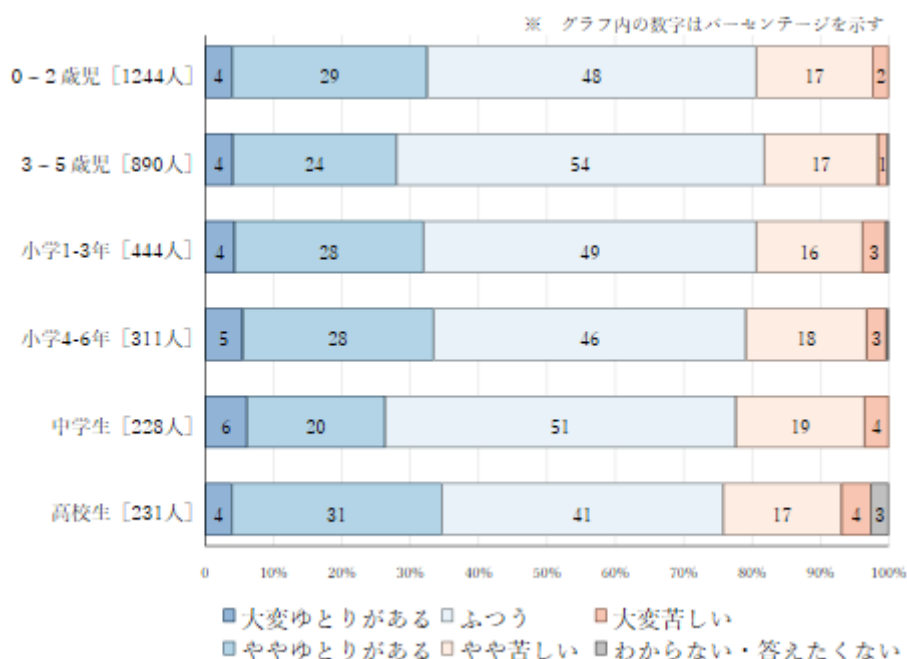


お子さまのご両親は、お子さまと一緒に住んでいますか？



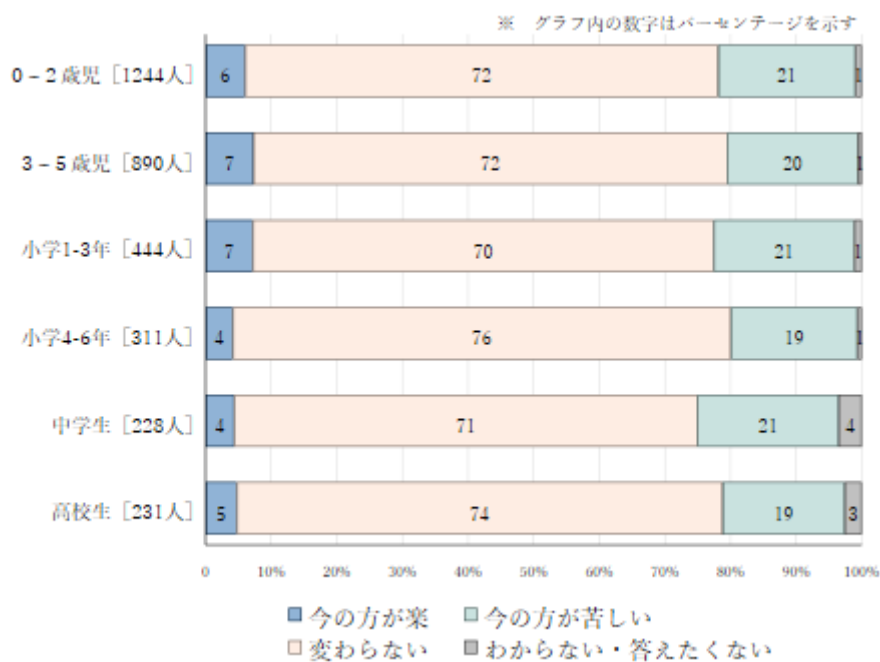
・全体の90%が「両親とも一緒に住んでいる」であった。

現在のあなたの家庭の暮らし（経済状況）について、1番近いものはどれですか？



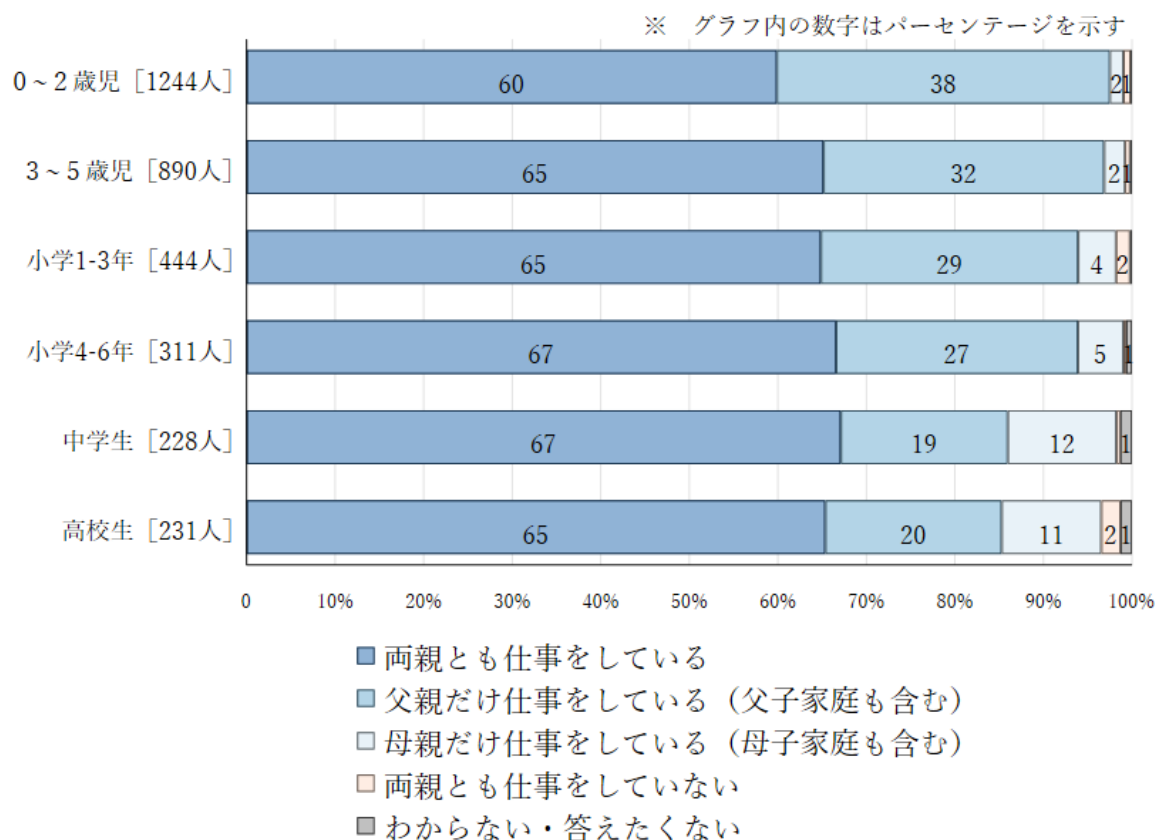
・「やや苦しい」「大変苦しい」は19%であった。

あなたの家庭の暮らし（経済状況）は、コロナ前=2020年（去年）1月時点=と比べて、
どうですか？



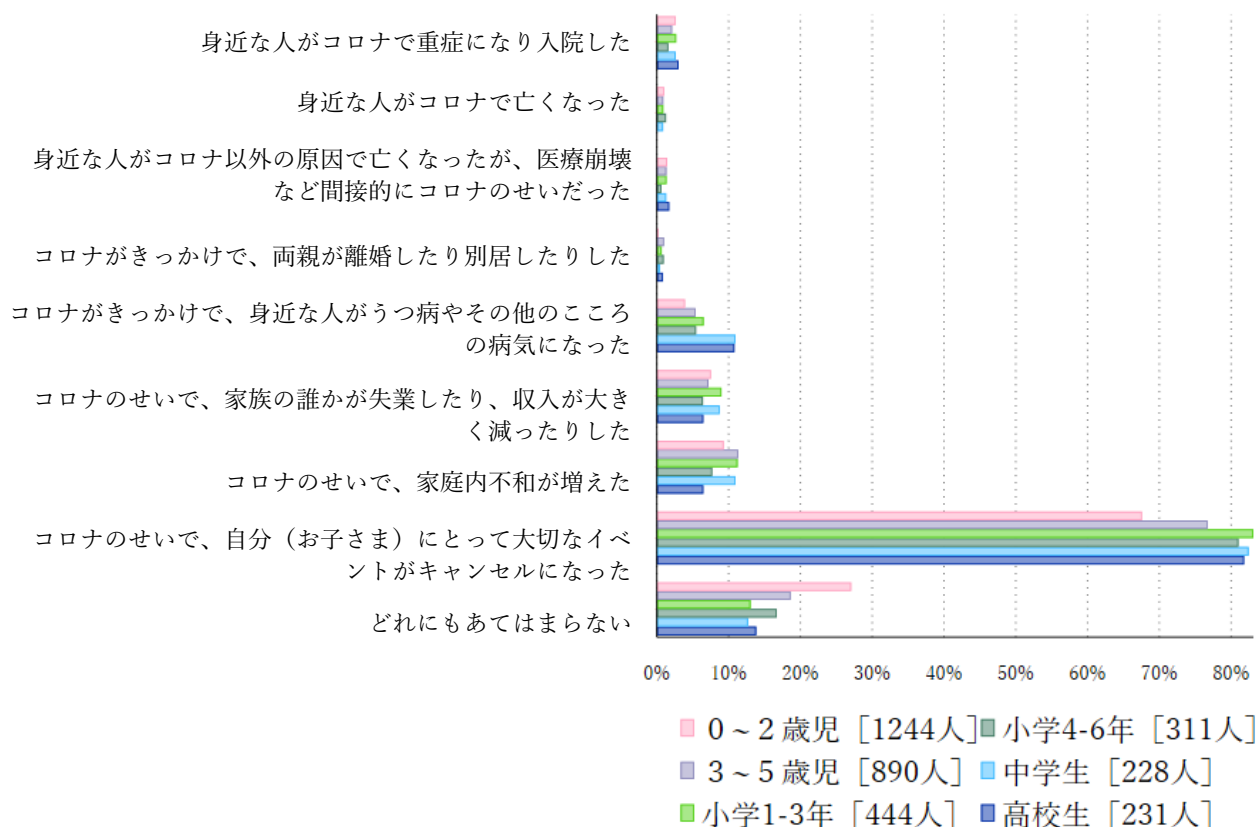
・2020年1月と比べて「今の方が苦しい」は20%であった。

お子さまのご両親は、お仕事をしていますか？（非常勤やパートタイム、アルバイトも仕事に含みます。）



・「両親とも仕事をしている」は63%であった。

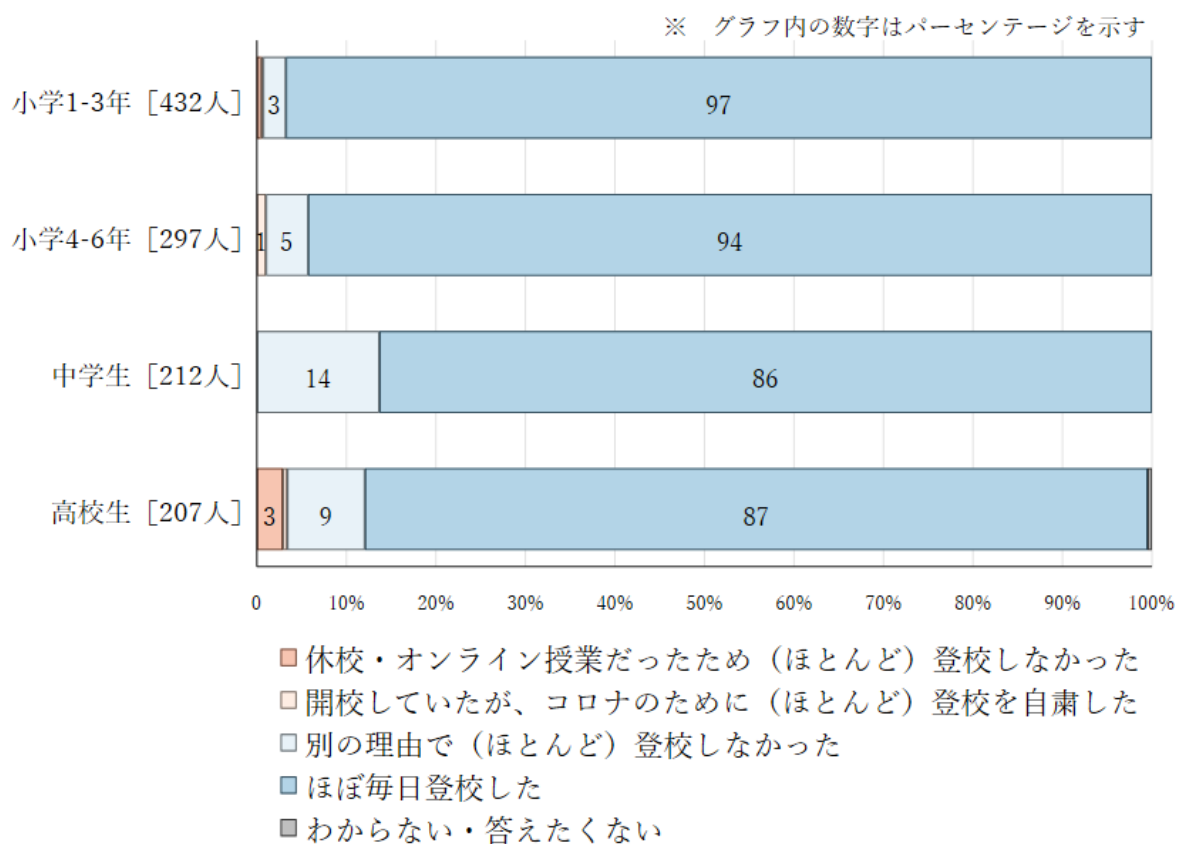
この2年間、コロナの感染拡大や関連する情勢が原因となり、多くの変化が出ています。次のうち、お子さまに起きたことをすべて選んでください。



・「コロナのせいで、自分（お子さま）にとって大切なイベントがキャンセルになった」は75%、「コロナのせいで、家庭内不和が増えた」は10%、「コロナのせいで、家族の誰かが失業したり、収入が大きく減ったりした」は8%、「コロナがきっかけで、身近な人がうつ病やその他のこころの病気になった」は6%であった。

登校の様子

保護者 この1ヶ月間、お子さまは学校に登校されましたか？



・全体の93%が「ほぼ毎日登校した」であった。

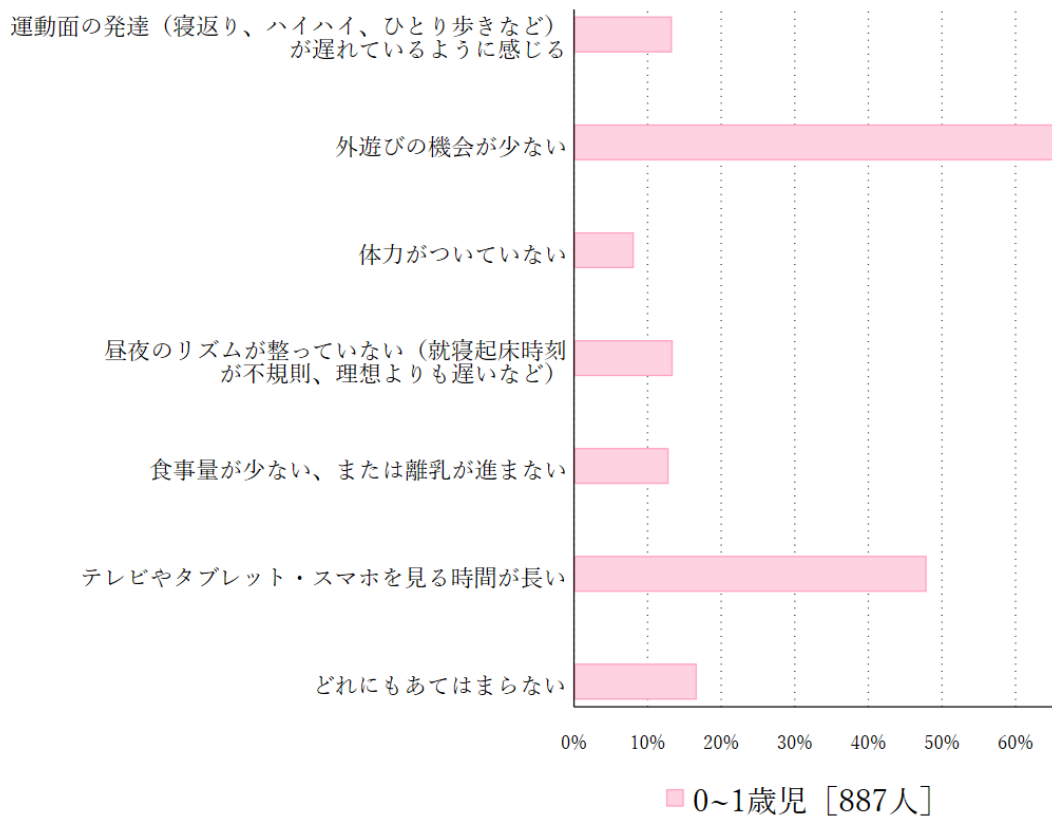
0～1歳児のお子さま・ご家庭の様子

ここでは、すべて **保護者** の回答を集計した。

お子さまの生活・様子

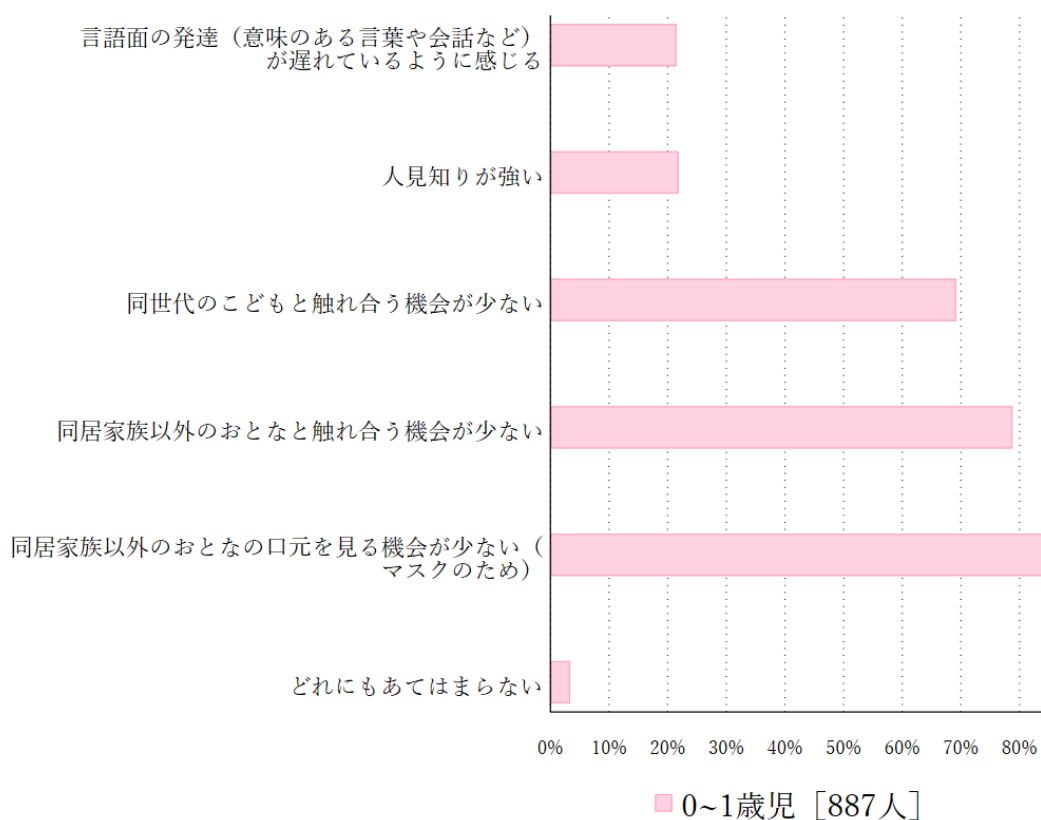
小さなお子さまは、生まれてからほぼずっとコロナ禍で生活をされていることと思います。コロナ禍の子育てで、戸惑うことや大変だったこともあったかもしれません。

お子さまやご家庭の生活・様子にあてはまる（とあなたが感じている）ものをすべて選んでください。



・「外遊びの機会が少ない」は65%、「テレビやタブレット・スマホを見る時間が長い」は48%であった。いずれか1つ以上あてはまると選択した保護者は83%であった。

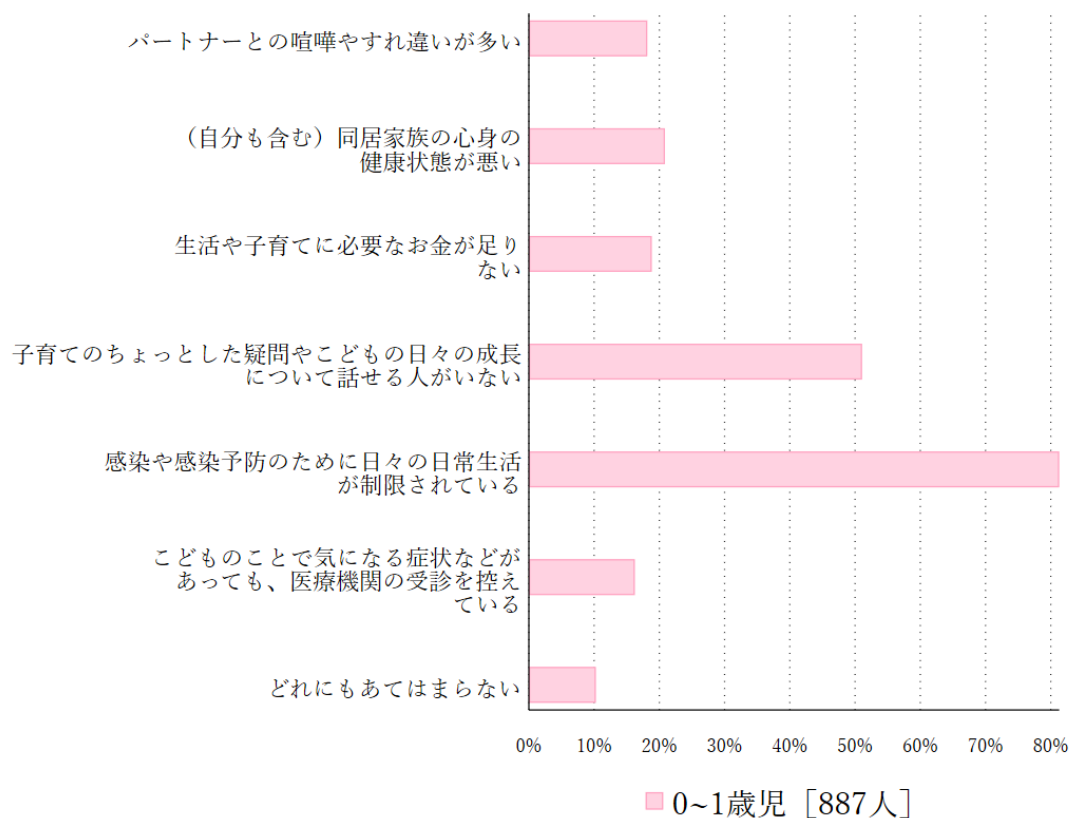
お子さまやご家庭の生活・様子にあてはまる（とあなたが感じている）ものをすべて選んでください。



・「同居家族以外のおとなの口元を見る機会が少ない（マスクのため）」は86%、「同居家族以外のおとなと触れ合う機会が少ない」は79%、「同世代の子どもと触れ合う機会が少ない」は69%であった。いずれか1つ以上あてはまると選択した保護者は97%であった。

ご家庭での悩み

あなたのご家庭にあてはまる（とあなたが感じている）ものをすべて選んでください。



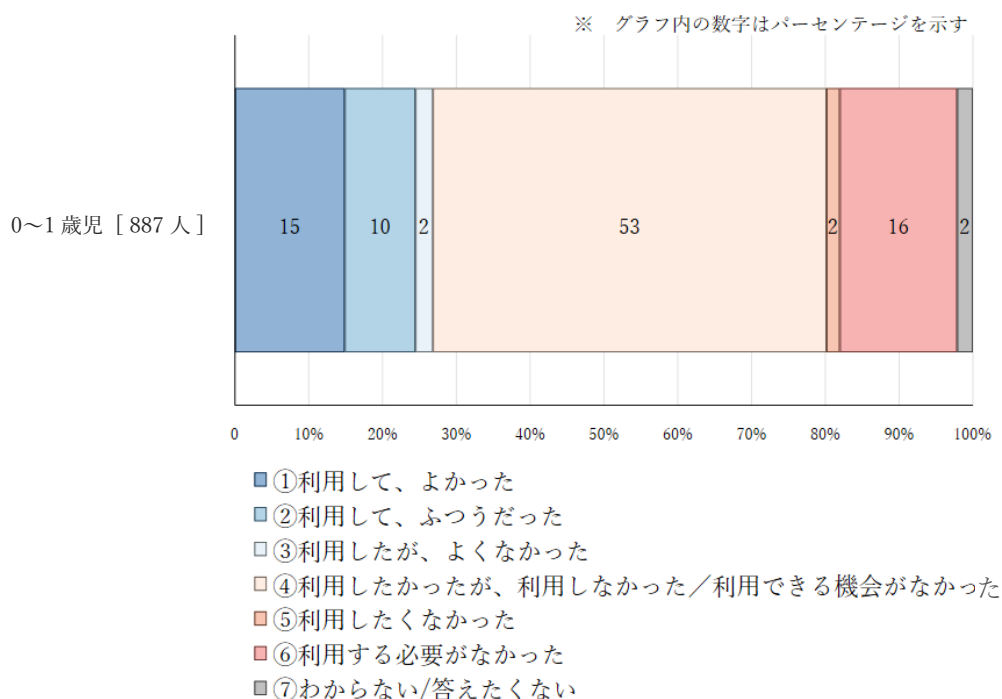
・「感染や感染予防のために日々の日常生活が制限されている」は81%、「子育てのちょっとした疑問やこどもの日々の成長について話せる人がいない」は51%であった。いずれか1つ以上あてはまると選択した保護者は90%であった。

イベント開催

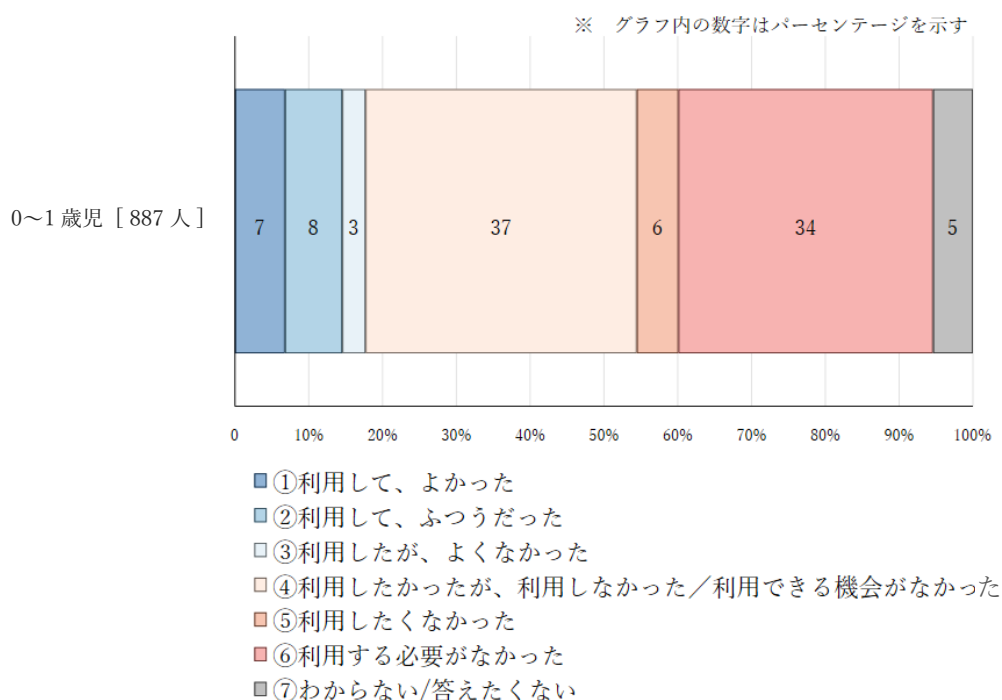
コロナ禍で、あなたやあなたの家族は次のサービスを利用しましたか。それぞれもっとも近いものを選んでください。

【①利用して、よかった ②利用して、ふつうだった ③利用したが、よくなかった ④利用したかったが、利用しなかった／利用できる機会がなかった ⑤利用しなくなかった ⑥利用する必要がなかった ⑦わからない/答えたくない】

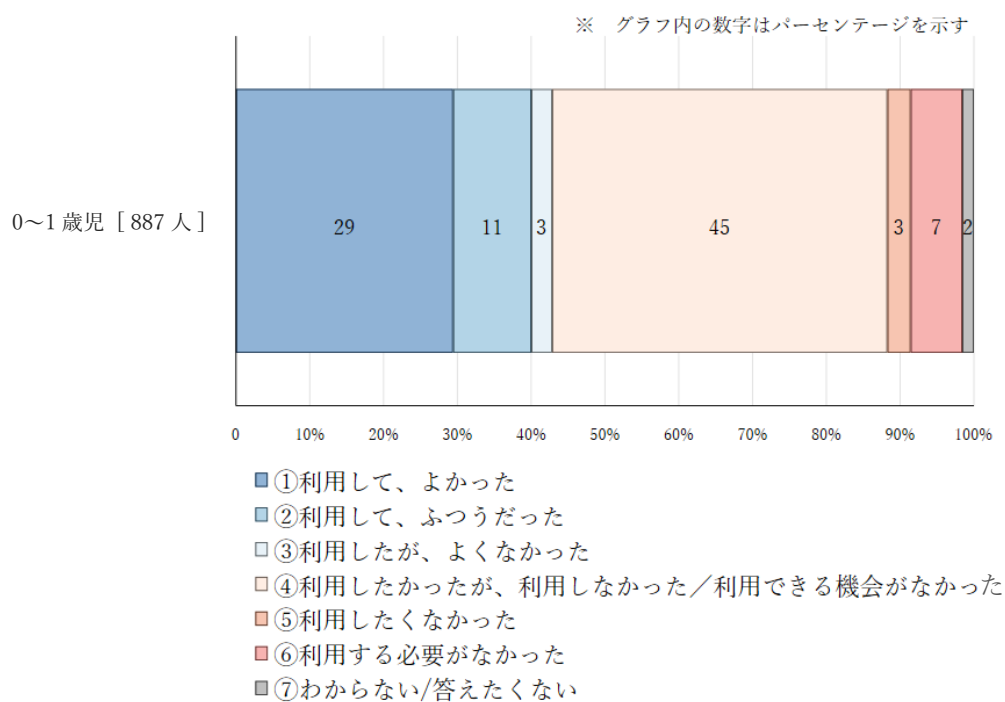
両親学級・親子学級（リアル/対面）



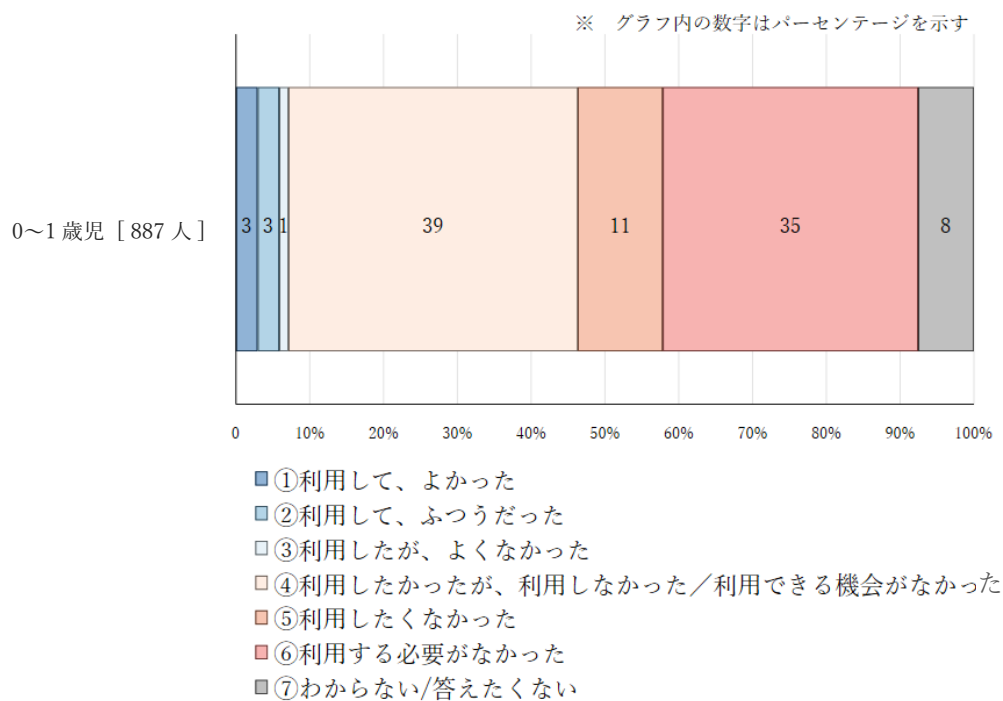
両親学級・親子学級（オンライン）



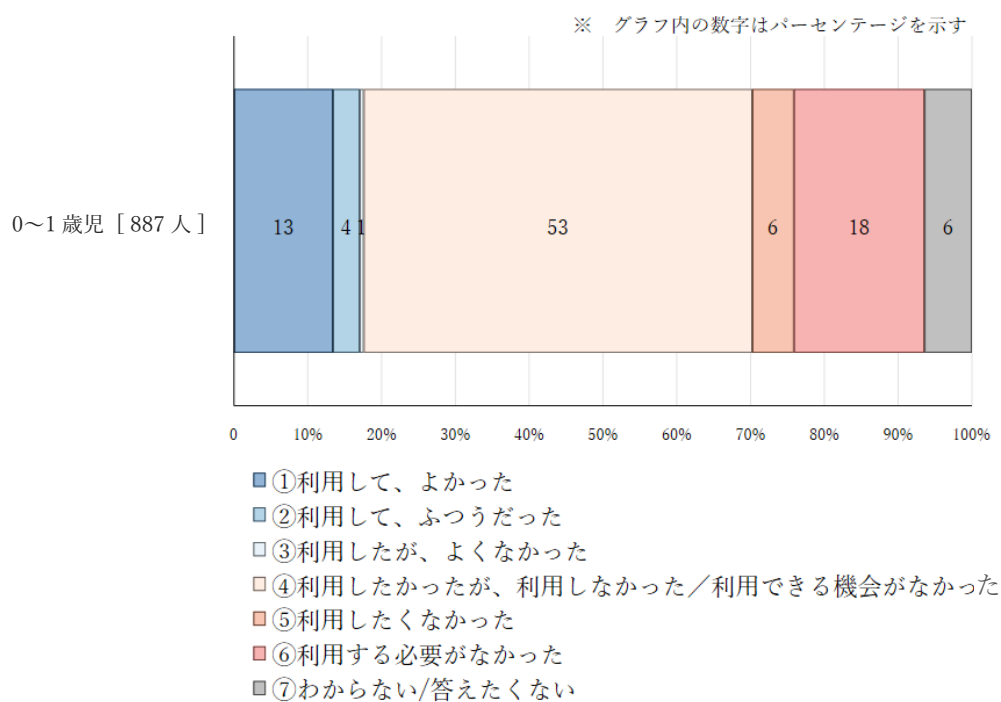
自治体が運営する子育て広場・乳幼児向けイベント（リアル/対面）



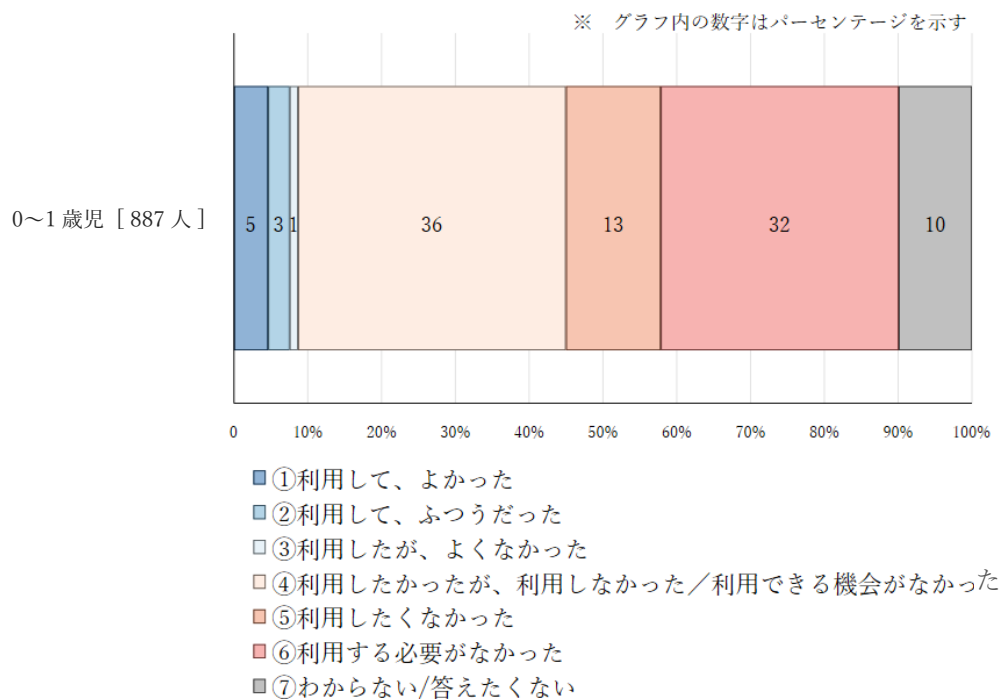
自治体が運営する子育て広場・乳幼児向けイベント（オンライン）



自治体以外が運営する乳幼児向けイベント（リアル/対面）



自治体以外が運営する乳幼児向けイベント（オンライン）



こどもたちの生活の質

ここでは、すべて **こども** の回答を集計した。

小学生以上（こども回答）

生活の質（QOL; Quality of life）日本語版「KINDL^R」尺度（小学生版・中学生版）により、「身体的健康」「精神的健康」及び「自尊感情」の3領域について、こどもたちのQOLを測定した。小学生以上でこども本人がアンケートに回答した場合は、こどもに尋ねた（こども回答）。

こども 小学1-3年生（181人）、小学4-6年生（149人）、中学生（93人）、高校生（64人）のデータ

各4項目ずつ、計12項目に対して、この1週間の状態を、〈ぜんぜんない,ほとんどない,ときどき,たいてい,いつも〉の5段階で回答してもらい、各領域0~100点に換算している。（高得点ほどその領域のQOLが高いことを意味する。）

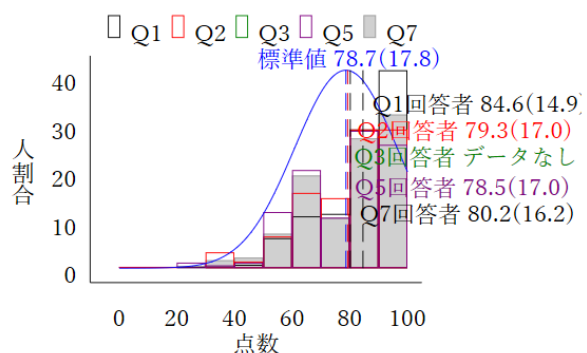
次ページからのグラフは、年齢/学年層別に作成されている。グラフ内の青色曲線は、先行する日本の調査*によって示された標準の平均点と標準偏差をもとに正規分布を仮定して描いた参考分布を表している。また、これまでの各調査の平均点について、第1回調査を黒色、第2回調査を赤色、第3回調査を緑色、第5回調査を紫色、第7回（今回）調査を灰色の破線で、また、グラフ内の数値は「平均点（標準偏差）」を示している。なお、それぞれの調査回答者はその都度異なるため、調査と調査を単純に比較することはできない。このため、解釈には注意が必要である。

*聖心女子大学論叢. 第122集. 2014年1月; 27-52

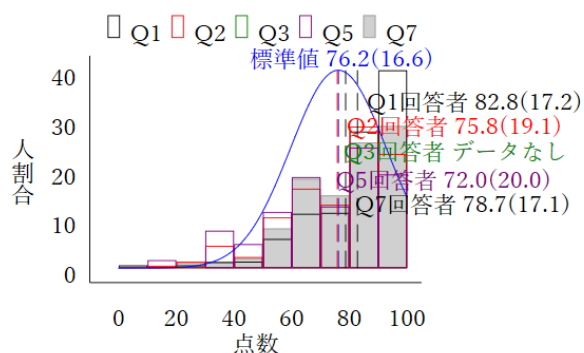
身体的健康

こども

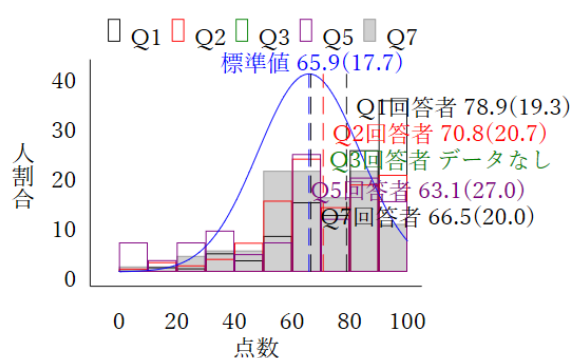
小学1-3年



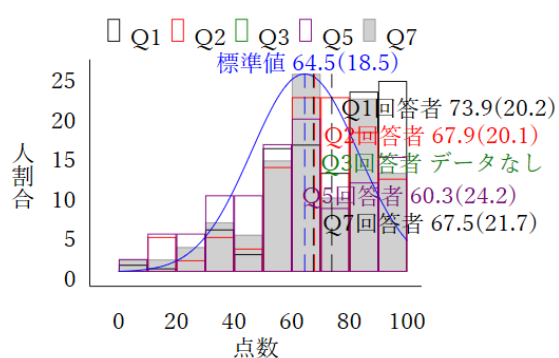
小学4-6年



中学生



高校生

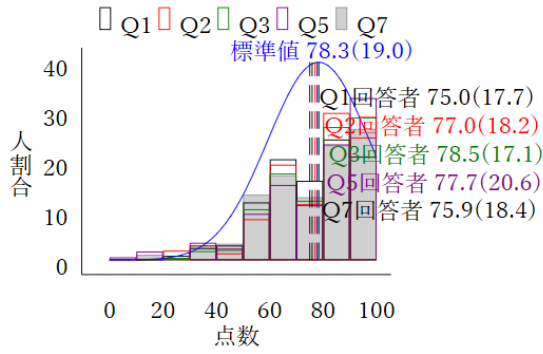


- ・こども回答における身体的健康の平均点は、全年齢群で、第5回調査時よりも今回（7回目）調査の方が高くなっていった。

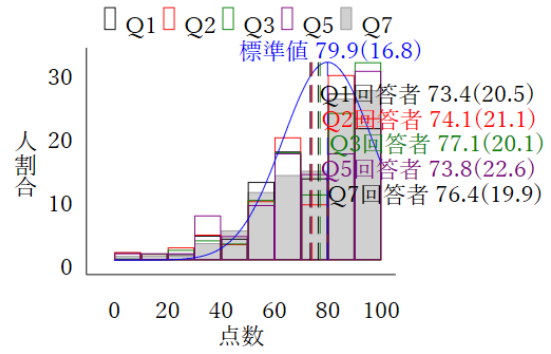
精神的健康

こども

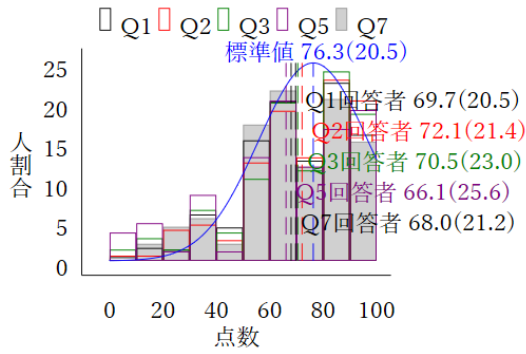
小学1-3年



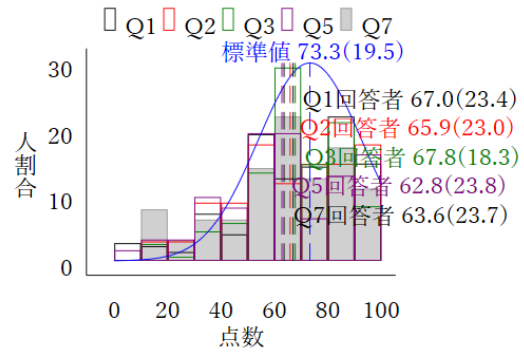
小学4-6年



中学生



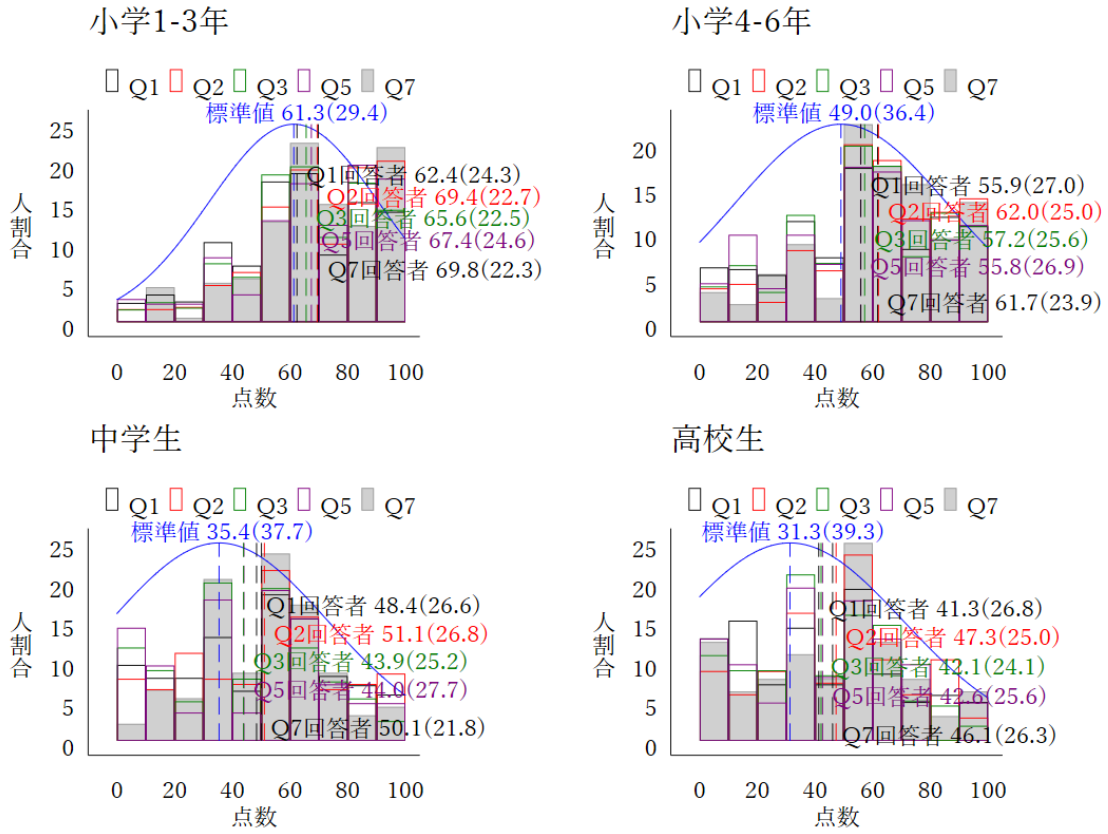
高校生



・こども回答における精神的健康の平均点は、小学4-6年生・中学生・高校生では第5回調査時よりも今回（7回目）調査の方が高くなっていた。小学1-3年生では第5回調査よりも低くなっていた。

自尊感情；自己肯定感

こども



・こども回答における自尊感情の平均点は、全年齢群で、第5回調査時よりも今回（7回目）調査の方が高くなっていた。

こどもたちのこころの状態

2歳以上（保護者回答）

保護者 2歳以上の保護者には、日本語版 SDQ（Strength and Difficulties Questionnaire：子どもの強さと困難さアンケート）を用いて、こどもの情緒や行動について尋ねた。直近半年の子どもの様子に関する 25 の質問（5つの下位尺度で構成）について、3段階＜あてはまらない, まああてはまる, あてはまる＞で尋ね、点数化した（逆転項目あり）。

* 強みに関する下位尺度 1つ、困難さに関する下位尺度 4つで構成。

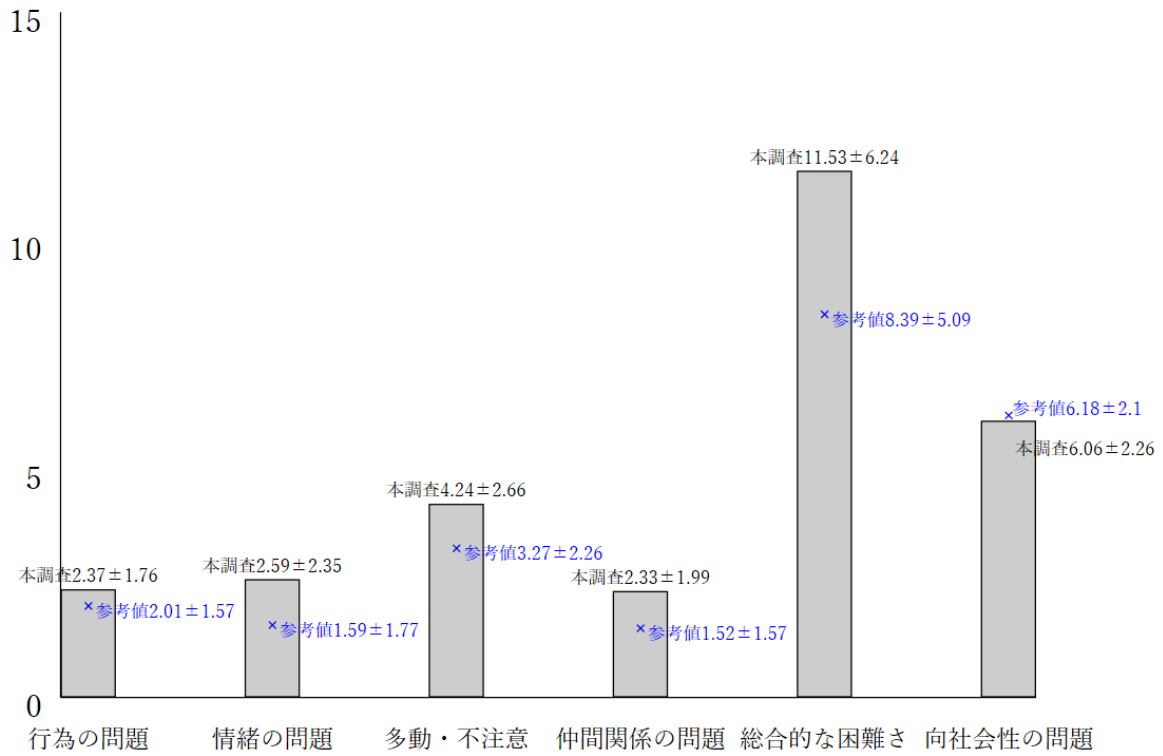
* 強み：「向社会的な行動」（0-10点）で評価。得点が高いほど強みが大きい。

* 困難さ：「仲間関係の問題」「多動/不注意」「情緒の問題」「行為の問題」（各 0-10点）と、それらの合計点からなる「総合的困難さ（TDS: total difficulties score）」（0-40点）で評価。得点が高いほど困難さが大きい。

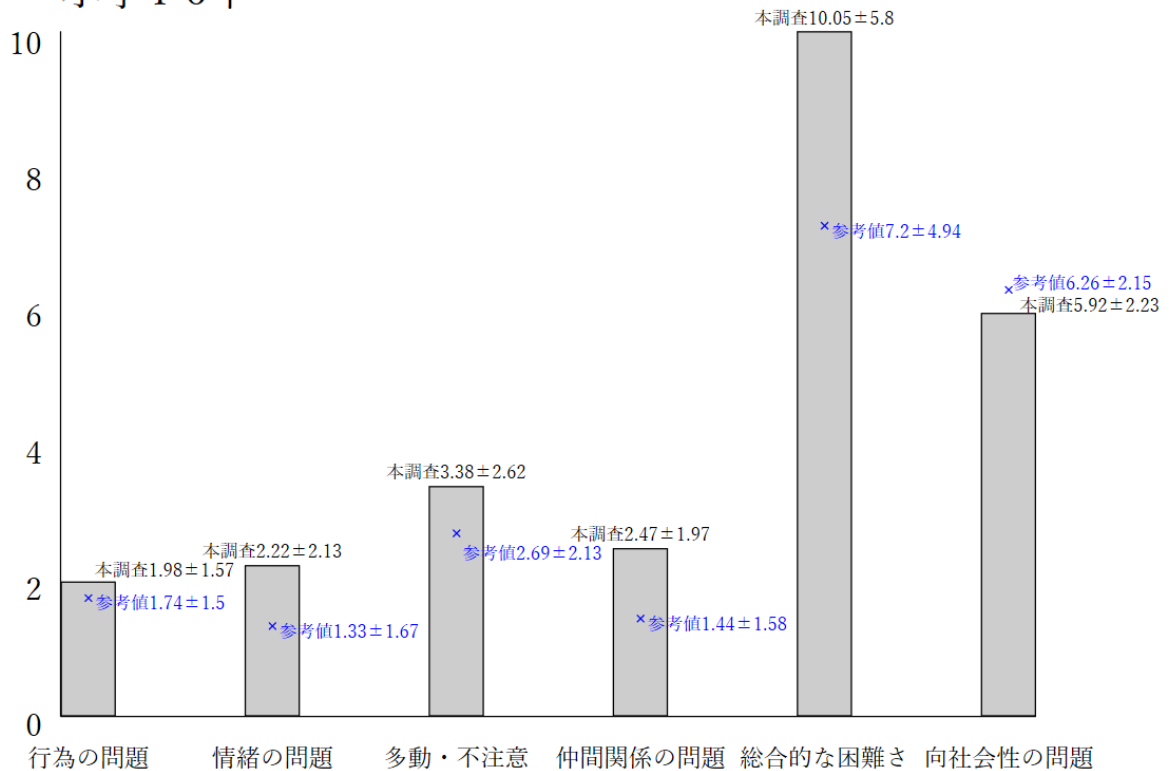
- 各下位尺度について、過去文献（Brain & Development. 2008;30:410-415）を参考に、得点によって3つの群（Low Need: 支援の必要性は低い, Some Need: いくらかの支援が必要, High Need: 支援が必要）に分けた。

	Low Need	Some Need	High Need
	スコア	スコア	スコア
向社会性の問題	6-10	5	0-4
仲間関係の問題	0-3	4	5-10
多動・不注意	0-5	6	7-10
情緒の問題	0-3	4	5-10
行為の問題	0-3	4	5-10

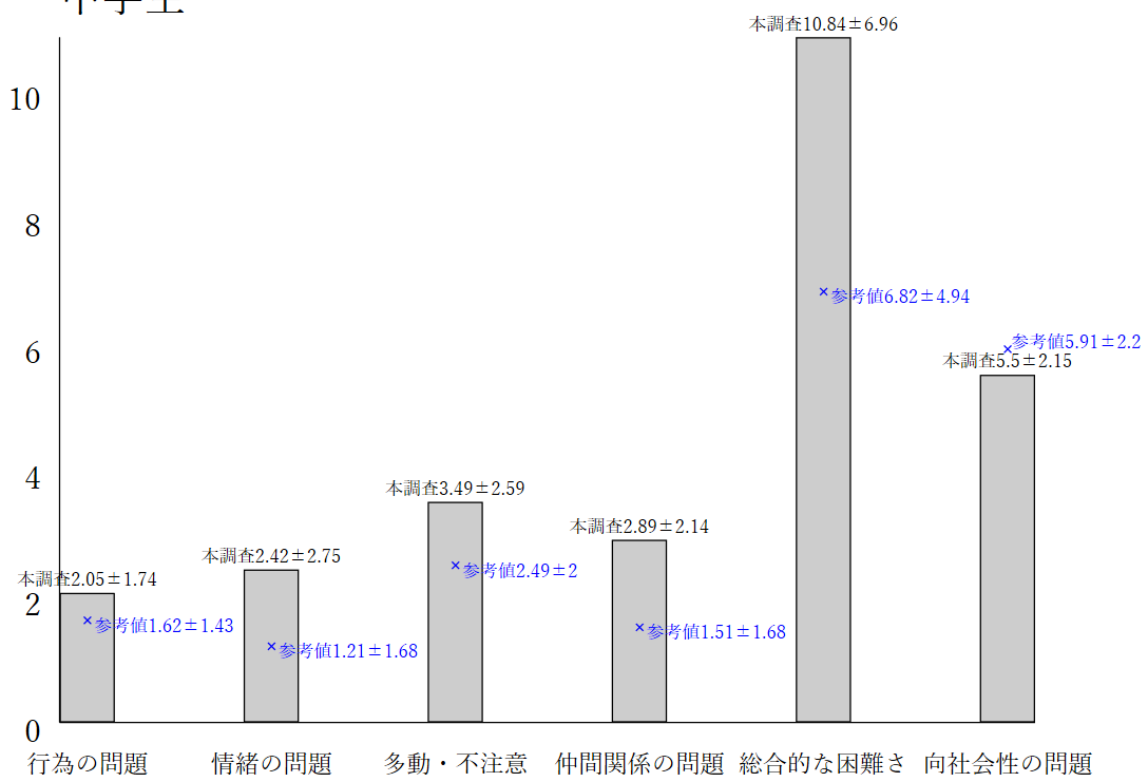
小学1-3年



小学4-6年



中学生

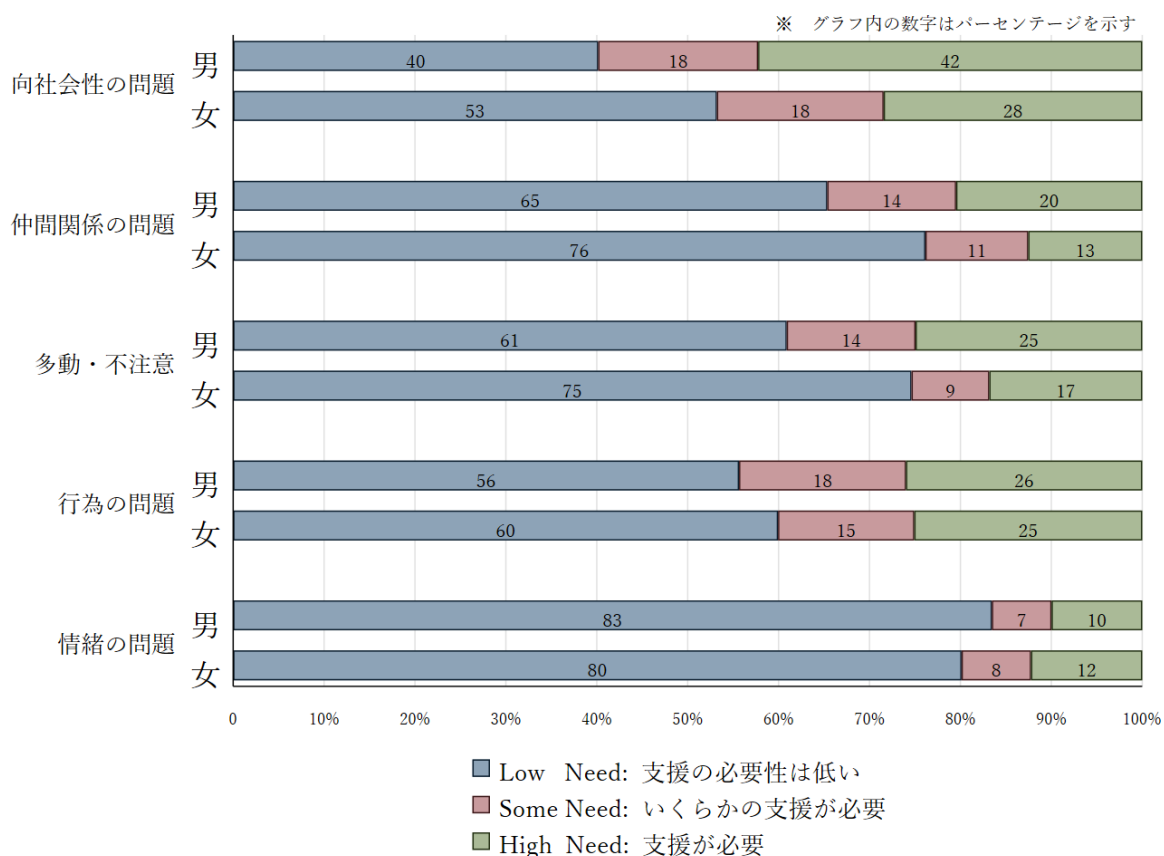


・上のグラフでは、先行する日本の調査*によって示された標準の平均点と標準偏差を参考値として示している。

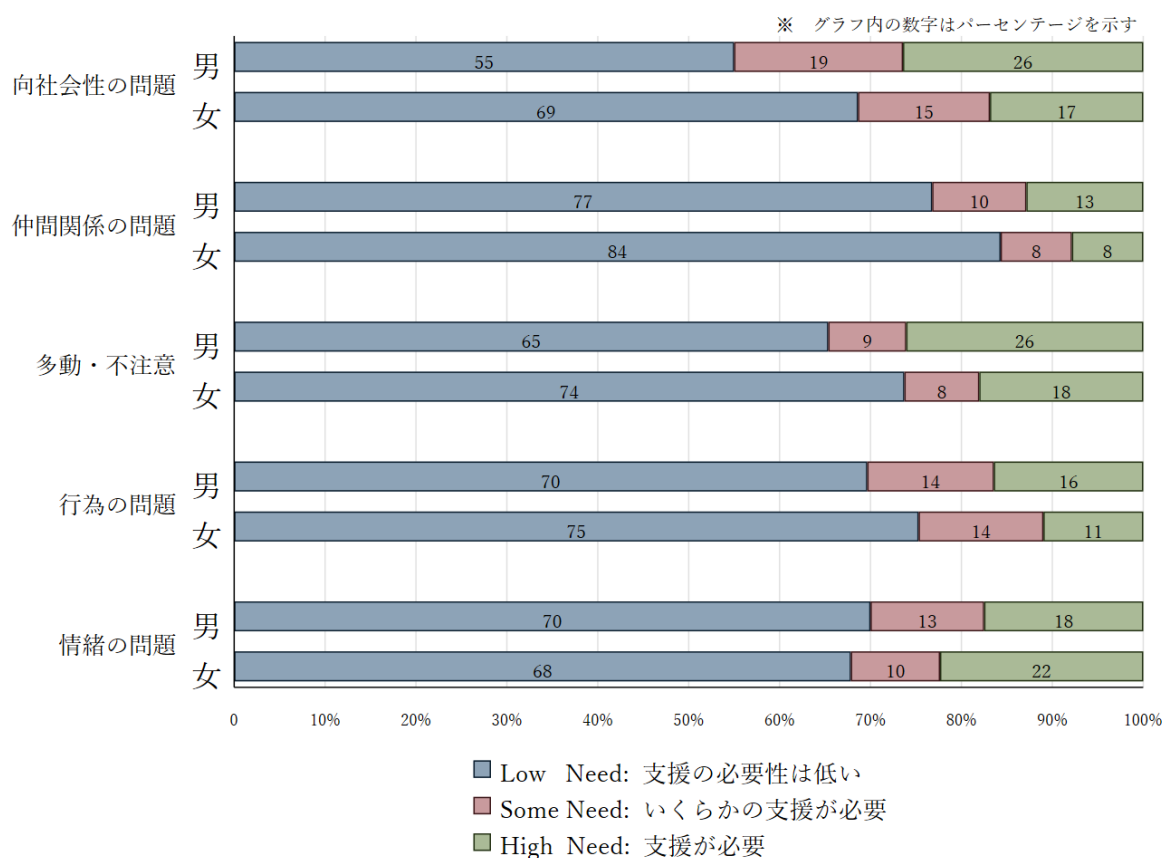
本調査の小学生のデータは、参考値と比較して困難さの得点が高くなっていた（より困難さが大きくなっていた）。

*Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health 2014, 8:1

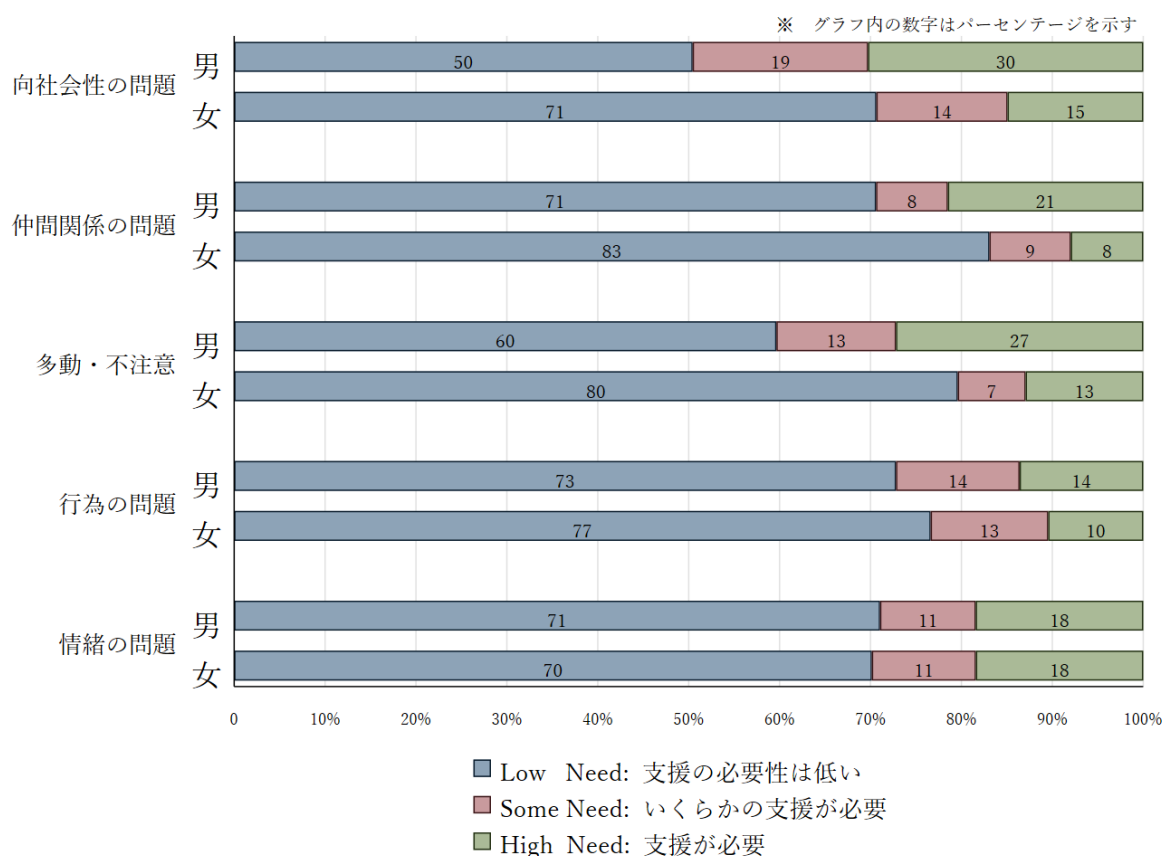
2-3 歳（男児 381 人、女児 327）のデータ



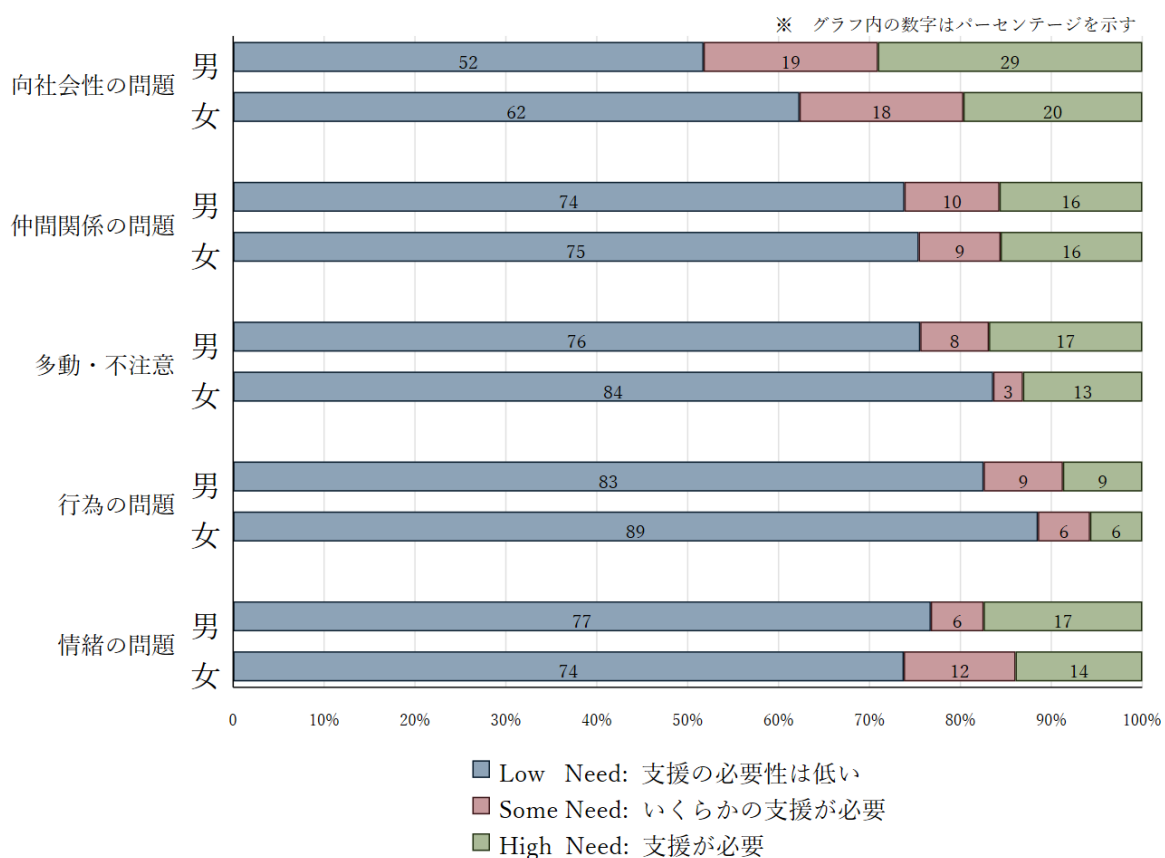
4-5 歳（男児 280 人、女児 255 人）のデータ



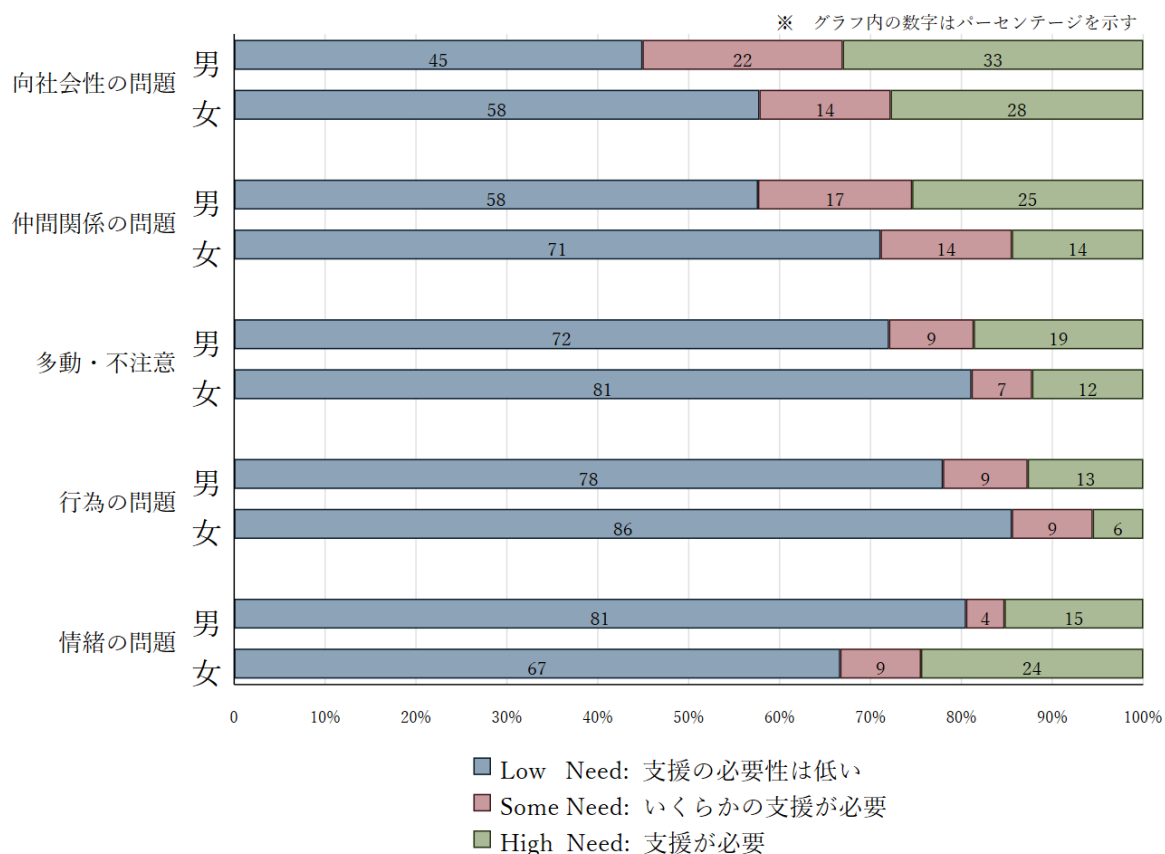
小学 1-3 年（男児 228 人、女児 201 人）のデータ



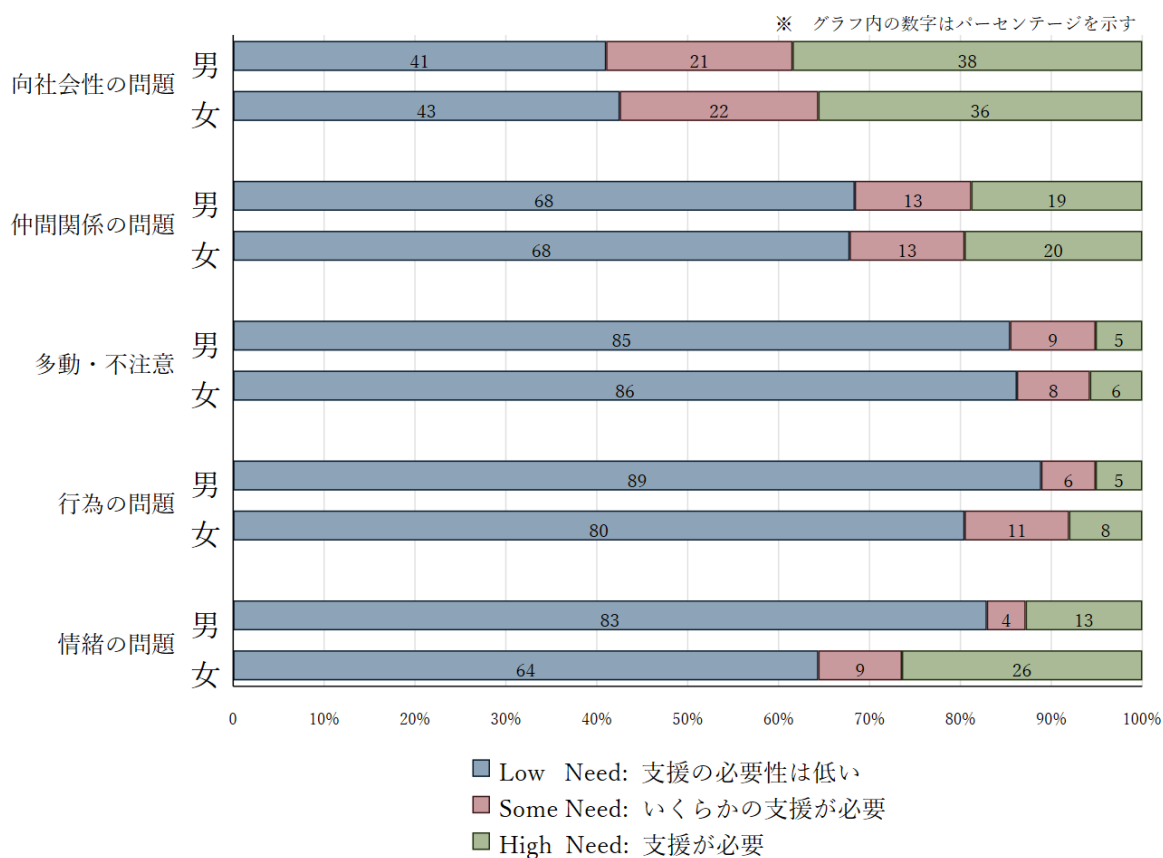
小学 4-6 年（男児 172 人、女児 122 人）のデータ



中学生（男児 118 人、女児 90 人）のデータ

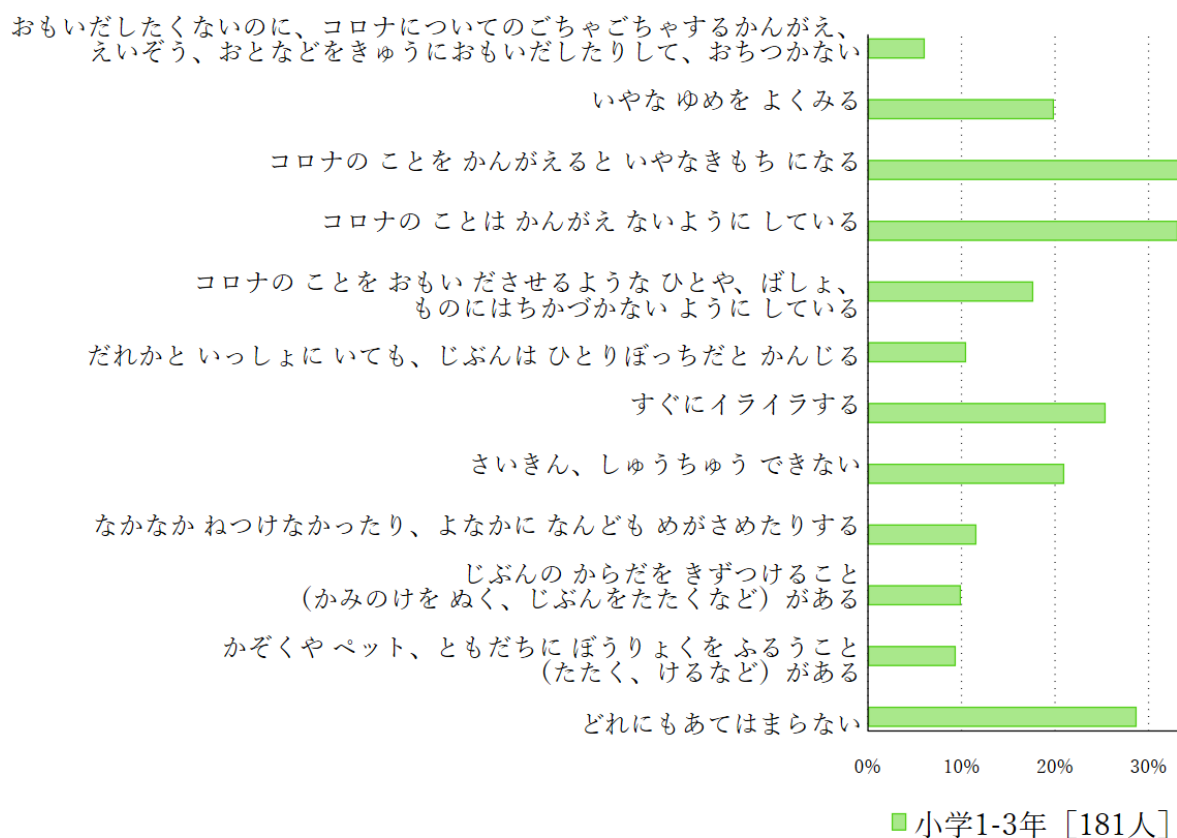


高校生（男児 117 人、女児 87 人）のデータ



小学 1-3 年生（こども回答）

こども さいきん 1 かげつの あなたにあてはまるものを ぜんぶ えらんでください。



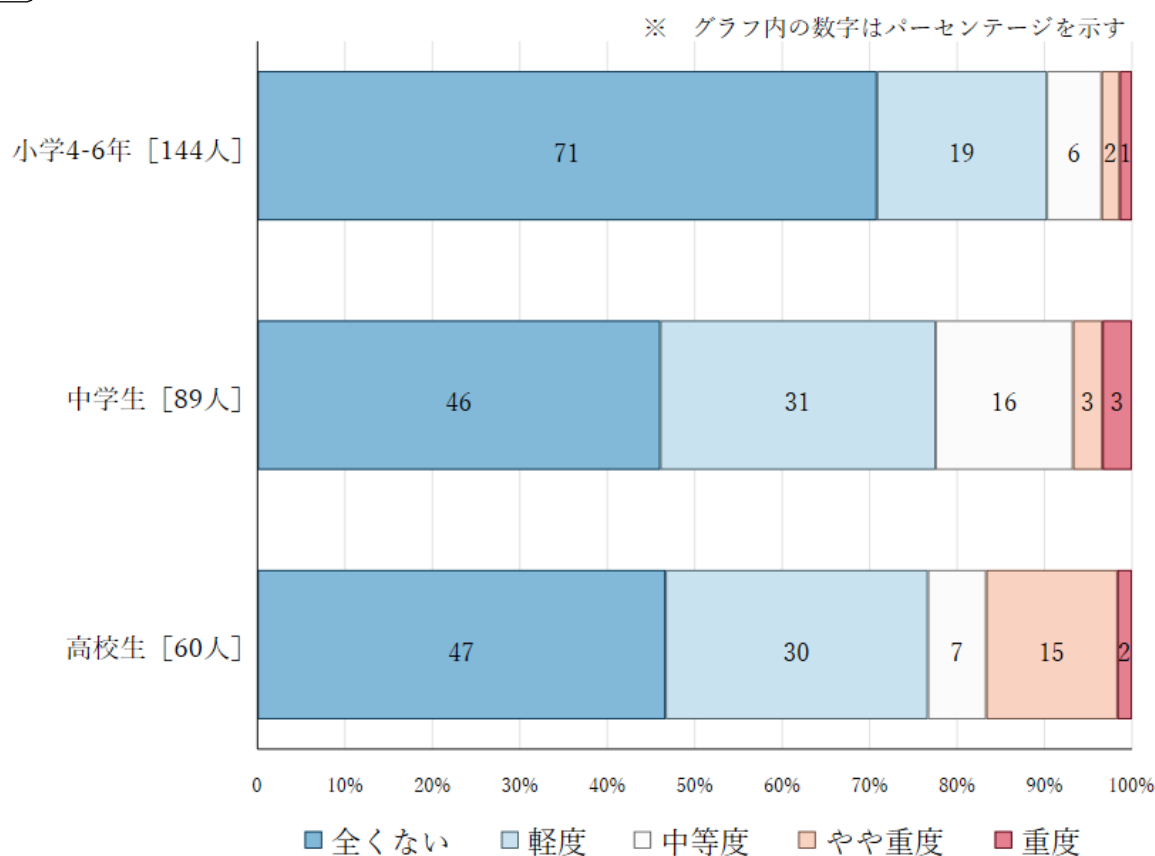
・小学 1-3 生のこどもによる回答全体では、34%が「コロナのことをかんがえるといやなきもちになる」を選択した。また、「コロナのことはかんがえないようにしている」は 33%、「すぐにイライラする」は 25%であった。いずれか 1 つ以上のストレス反応を選択したこどもは、こども回答全体で、71%であった。

小学4年生以上（こども回答）

小学4年生以上のこどもには、質問項目（1）から（9）までは、思春期のこどもを対象としたうつ症状の重症度尺度である Patient Health Questionnaire for Adolescents（PHQ-A）日本語版を用いて、こころの状態を尋ねた。

過去7日間について、9項目の質問に対して4段階（0点：全くない、1点：数日、2点：半分以上、3点：ほとんど毎日）で尋ね、点数化した。総合点は0から27点で、点が高いほどより重度のうつ症状が示唆される。

こども

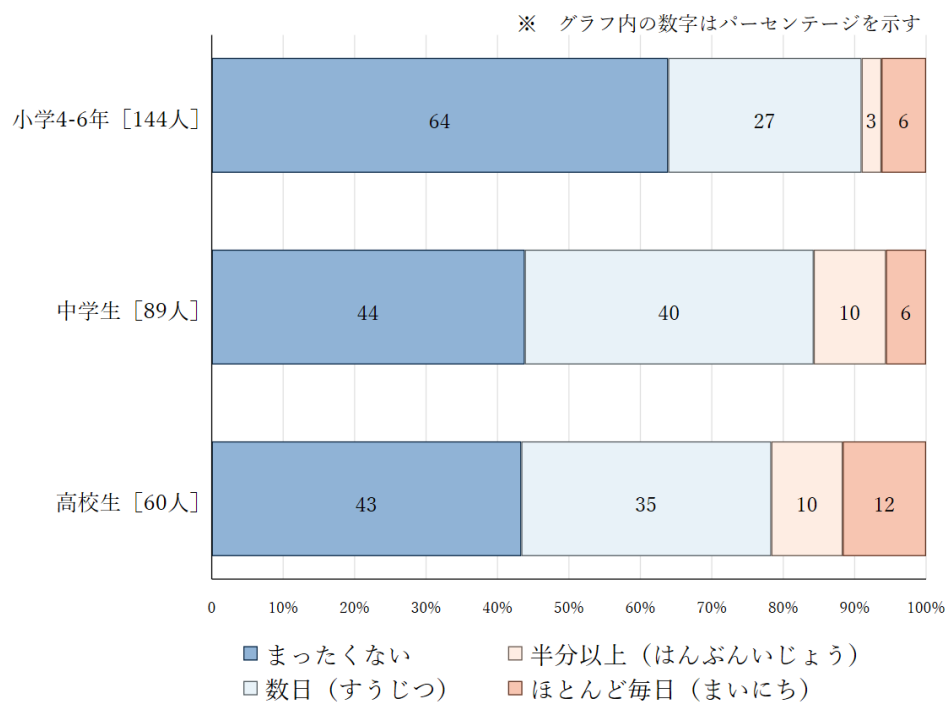


・小学4-6年生の10%、中学生の22%、高校生の23%に、中等度以上のうつ症状があった。

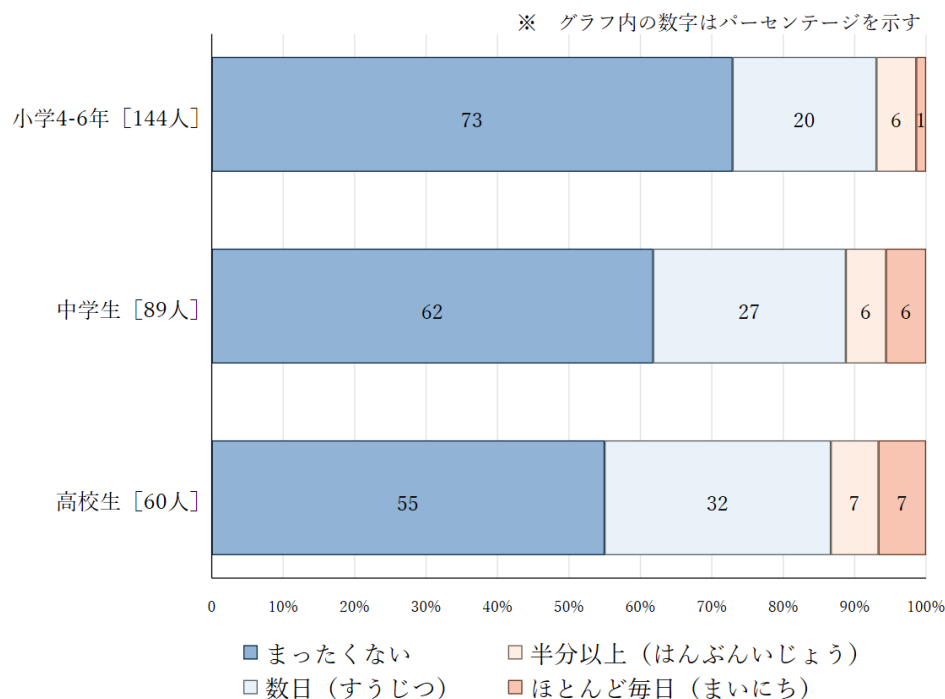
以下、各項目についての結果を記す。

こども 【この7日間】次のような問題にどのくらい頻繁（ひんばん）に悩まされていますか？それぞれの症状に対し、あなたの気持ちにもっとも近いものを選んでください。

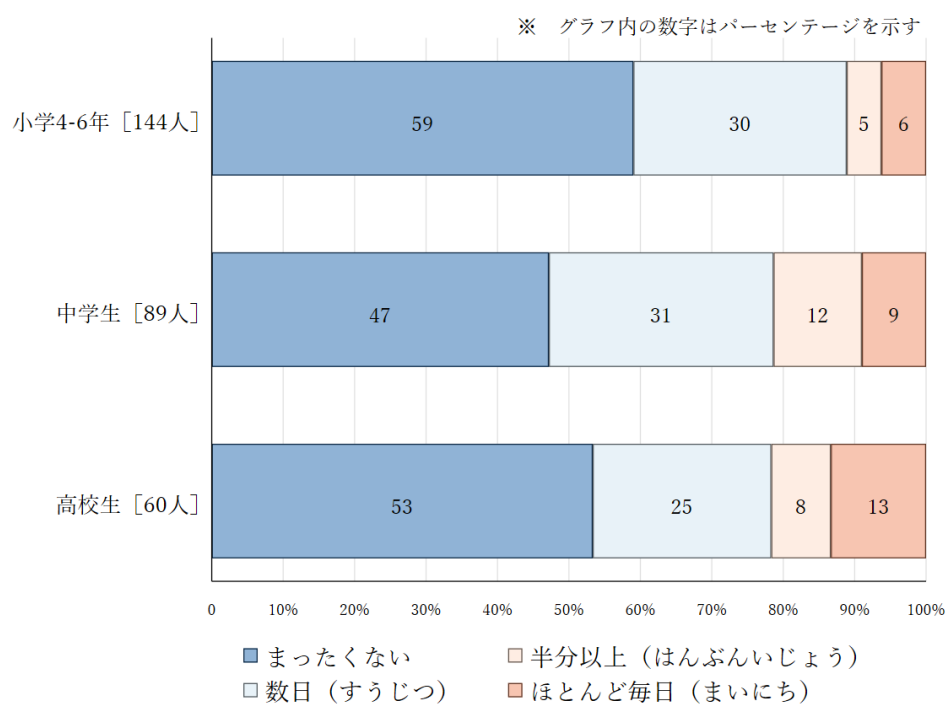
(1) 気分が落ち込む、ゆううつになる、いらいらする、または絶望的な気持ちになる



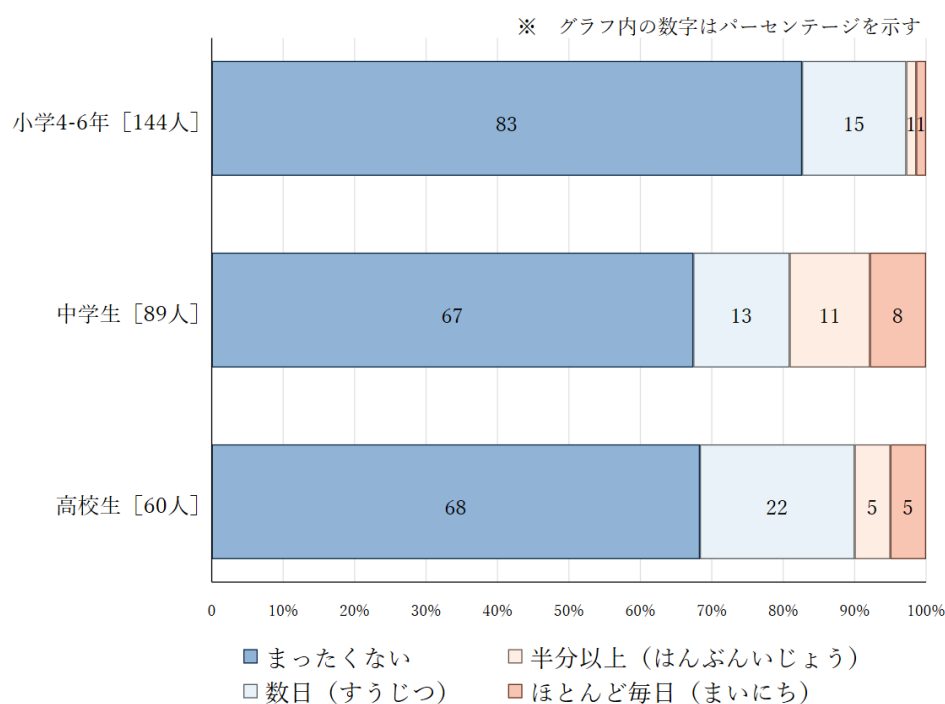
(2) 物事に対してほとんど興味がない、または楽しめない



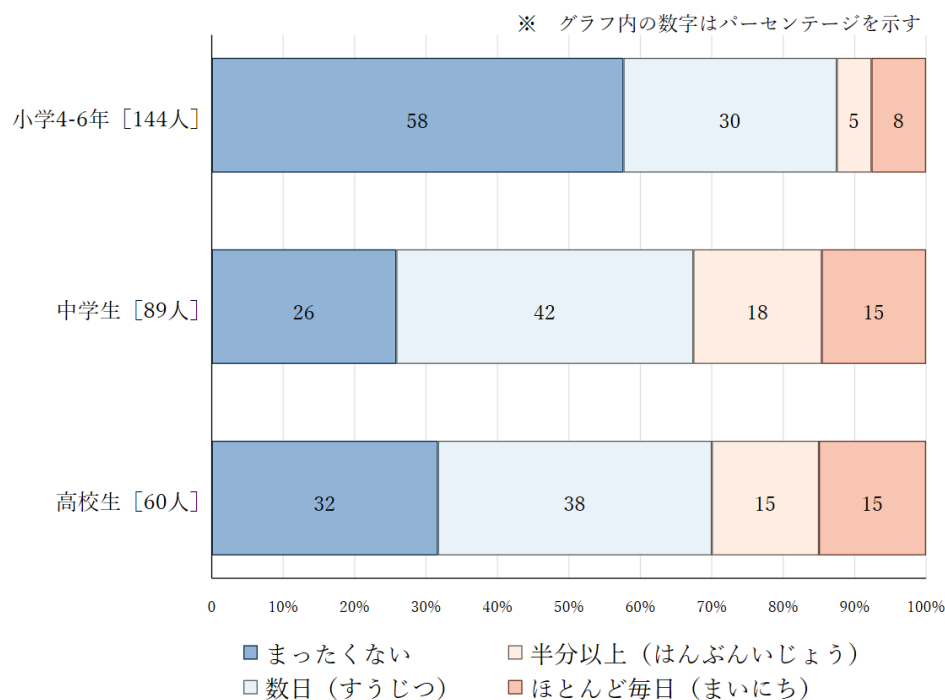
(3) 寝つきが悪い、途中で目が覚める、または逆に眠（ねむ）りすぎる



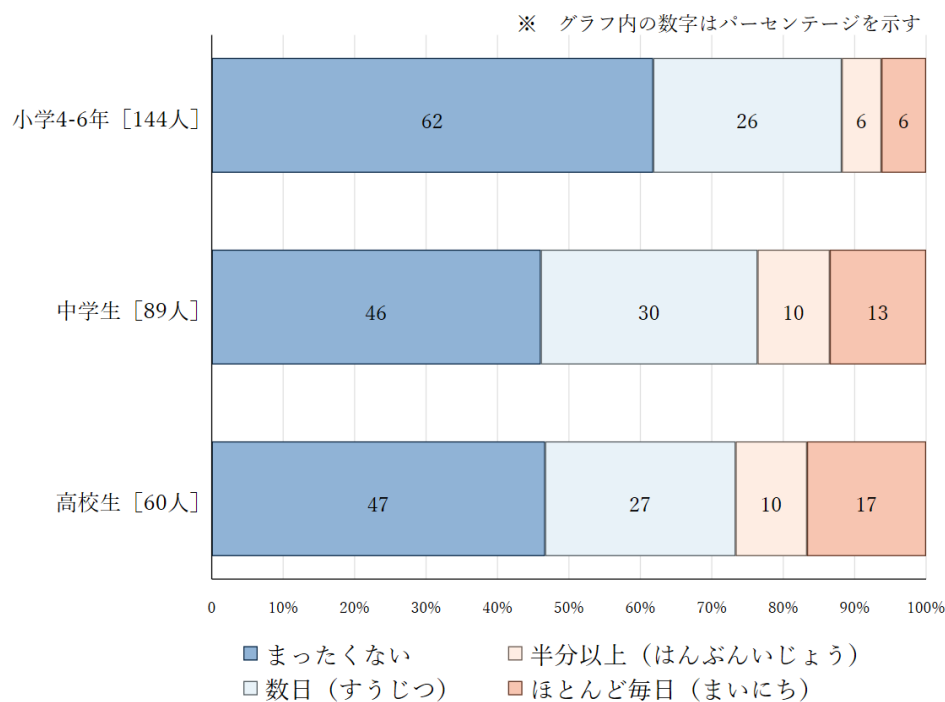
(4) あまり食欲がない、体重が減る、または食べすぎる



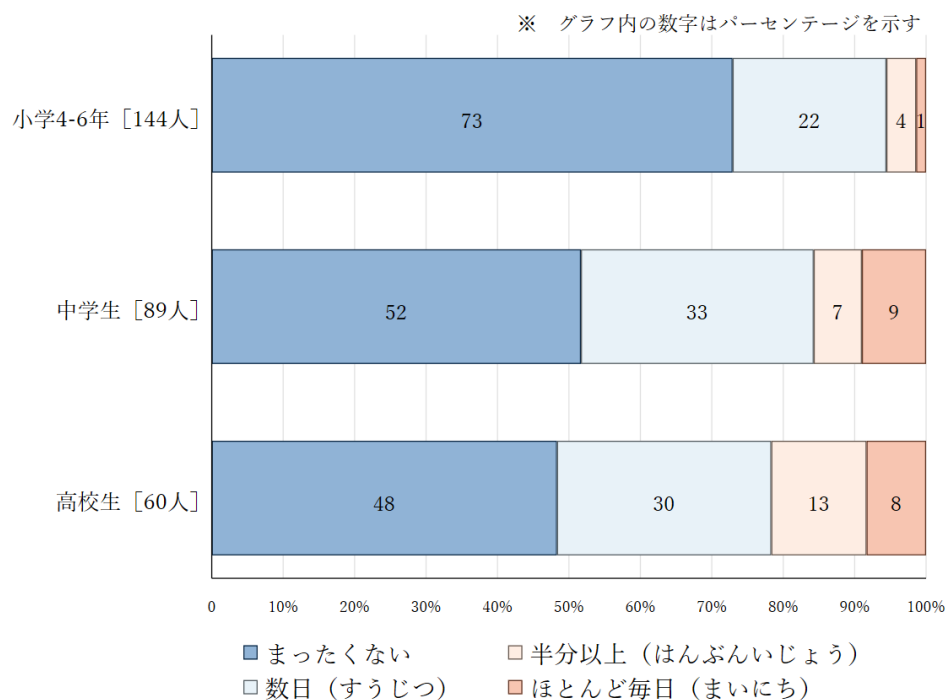
(5) 疲（つか）れた感じがする、または気力がない



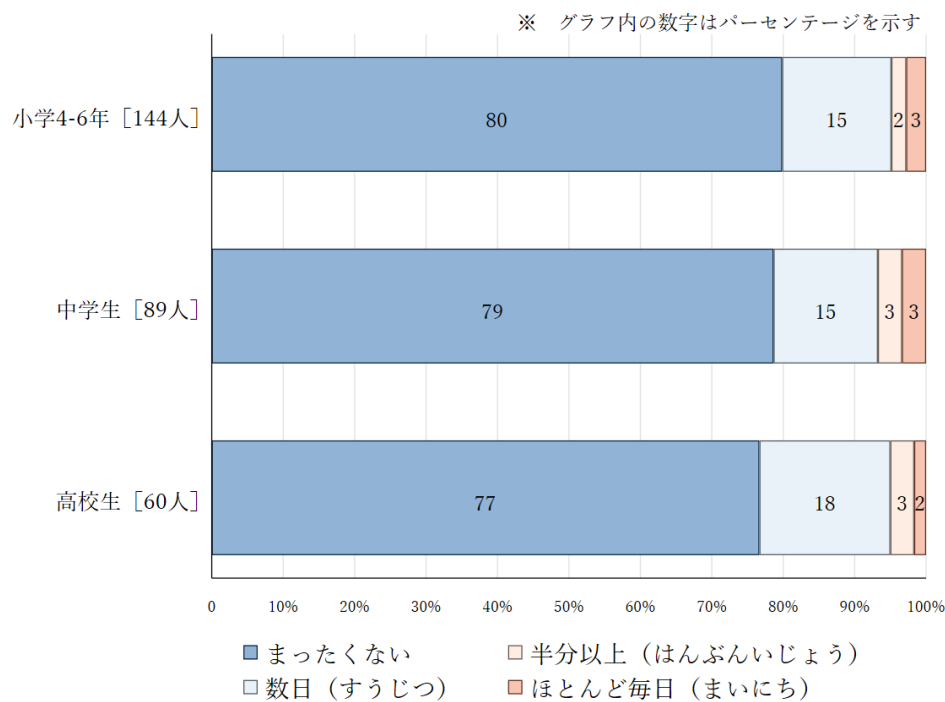
(6) 自分はダメな人間または失敗者だと感じる、または自分自身あるいは家族をがっかりさせていると思う



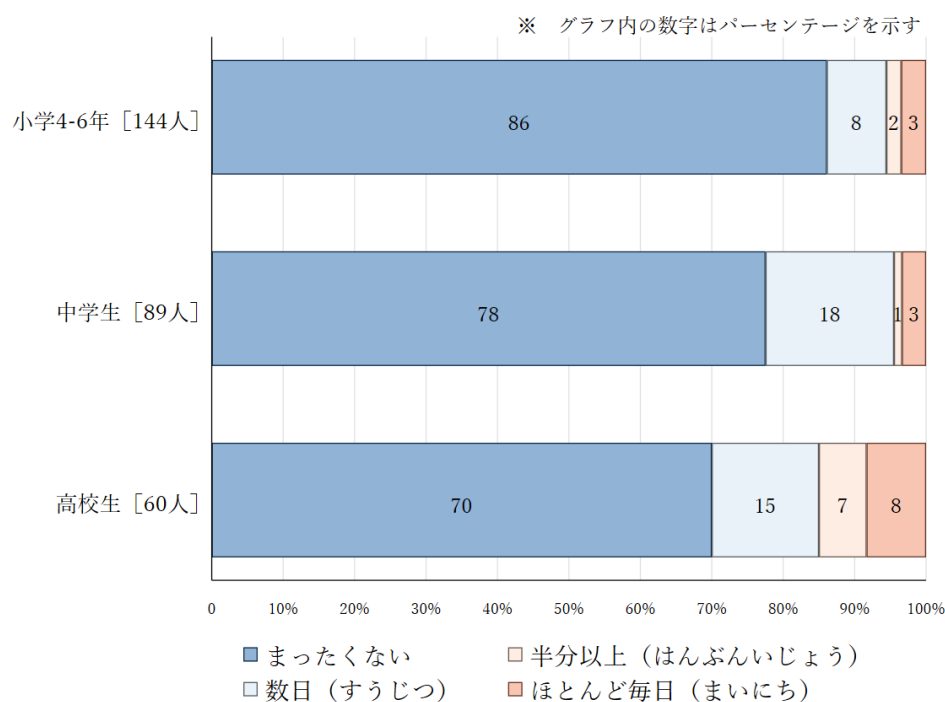
(7) 学校の勉強、読書、またはテレビを見ることなどに集中するのが難しい



(8) 他人が気づくくらいに動きや話し方が遅 (おそ) くなる、あるいはこれと反対に、そわそわしたり、落ち着かず、普段 (ふだん) よりも動き回ることがある

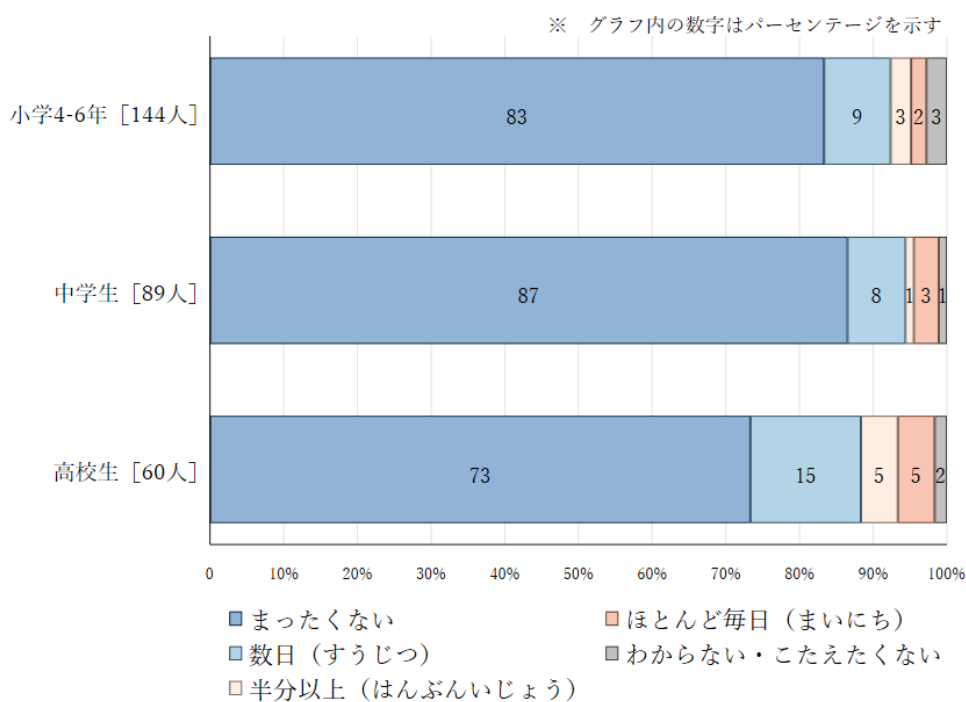


(9) 死んだ方がいい、または自分を何らかの方法で傷つけようと思ったことがある



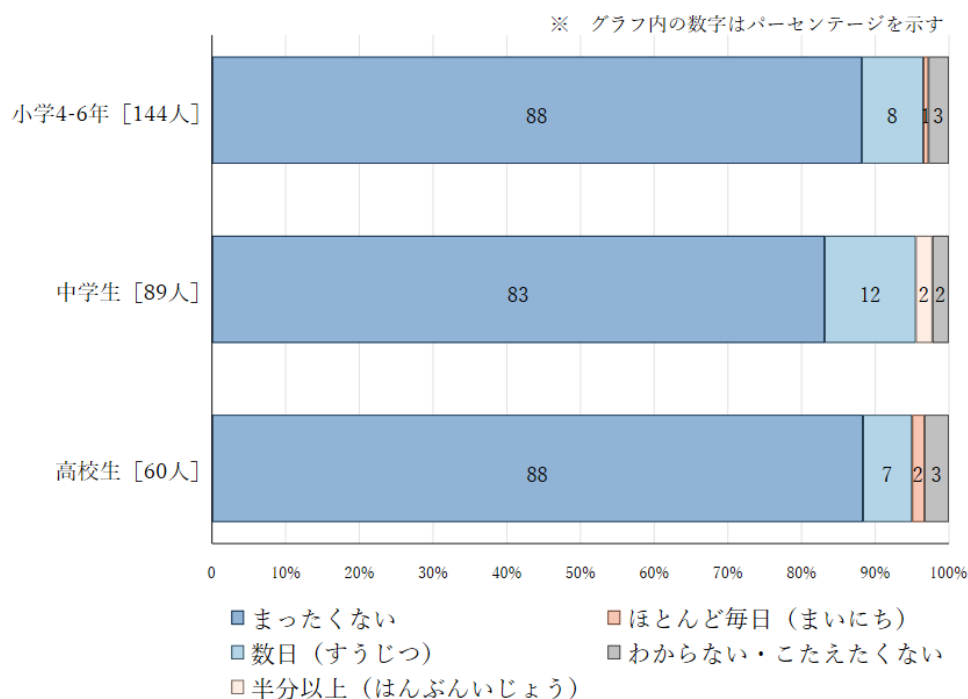
以上(1)～(9)がPHQ-Aの項目、(10)以降はオリジナルの質問項目。

(10) 実際に、自分のからだを傷つけたこと (かみの毛を抜く、自分をたたくなど) がある



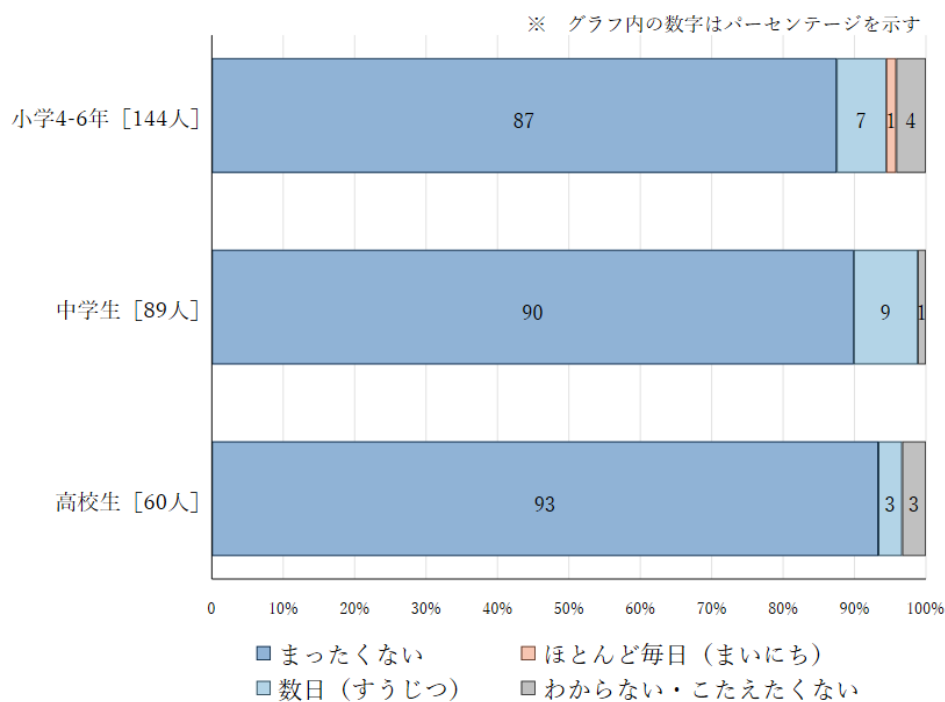
・小学4-6年生の14%、中学生の12%、高校生の25%が、「数日」「半分以上」「ほとんど毎日」あると回答した。

(11) 家族やペット、友だちに暴力（たたく、けるなど）をふるおうと思ったことがある



・小学4-6年生の9%、中学生の15%、高校生の8%が、「数日」「半分以上」「ほとんど毎日」あると回答した。

(12) 実際に、家族やペット、友だちに暴力（たたく、けるなど）をふるったことがある



・小学4-6年生の8%、中学生の9%、高校生の3%が、「数日」「ほとんど毎日」あると回答した。

援助希求

困った時、悩んだ時（小学4年生以上 こども回答）

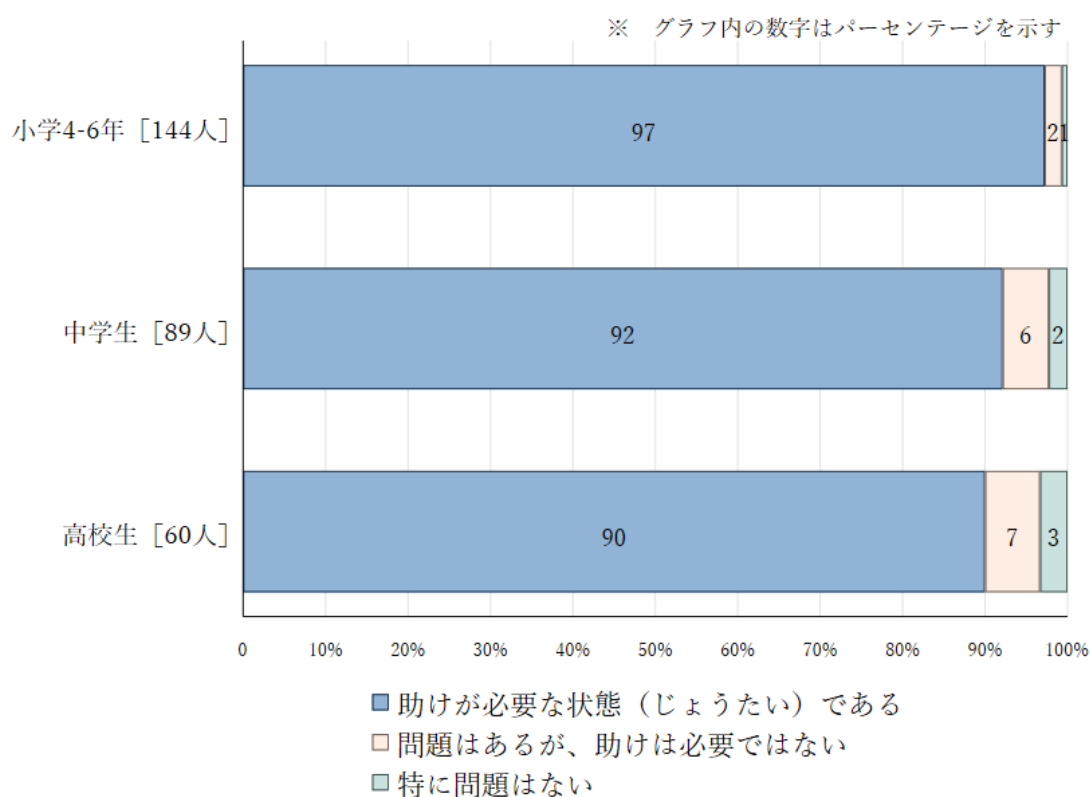
次の文章を読んで、質問に答えてください。

太郎君は、この数週間、いつもとちがって、なんだか悲しくなったり、つらい気持ちになったりすることが多くなりました。

いつも体がだるく、つかれていて、夜はしっかりねむることができなくなっています。あまり食欲（しょくよく）もなく、体もやせてきています。勉強も手につかず、成績（せいせき）も落ちてきました。

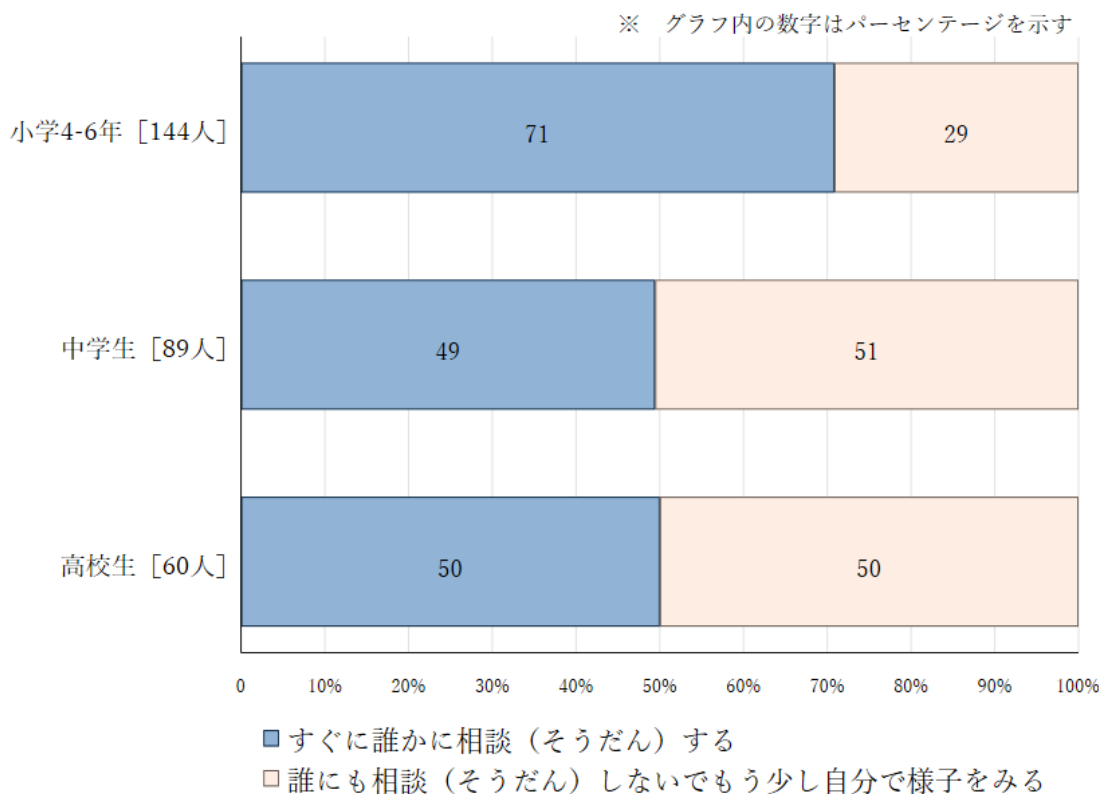
決めなくてはいけないことも、なかなか決められず、これまでできていた毎日の勉強や習い事などが、とてもつらく感じるようになってきています。

(1) 太郎君の状態（じょうたい）は、次のどれだと思いますか？



・94%が「助けが必要な状態（じょうたい）である」であった。

(2) もしあなたが太郎君と同じような状態（じょうたい）になったら、誰かに相談（そうだ
ん）しますか？

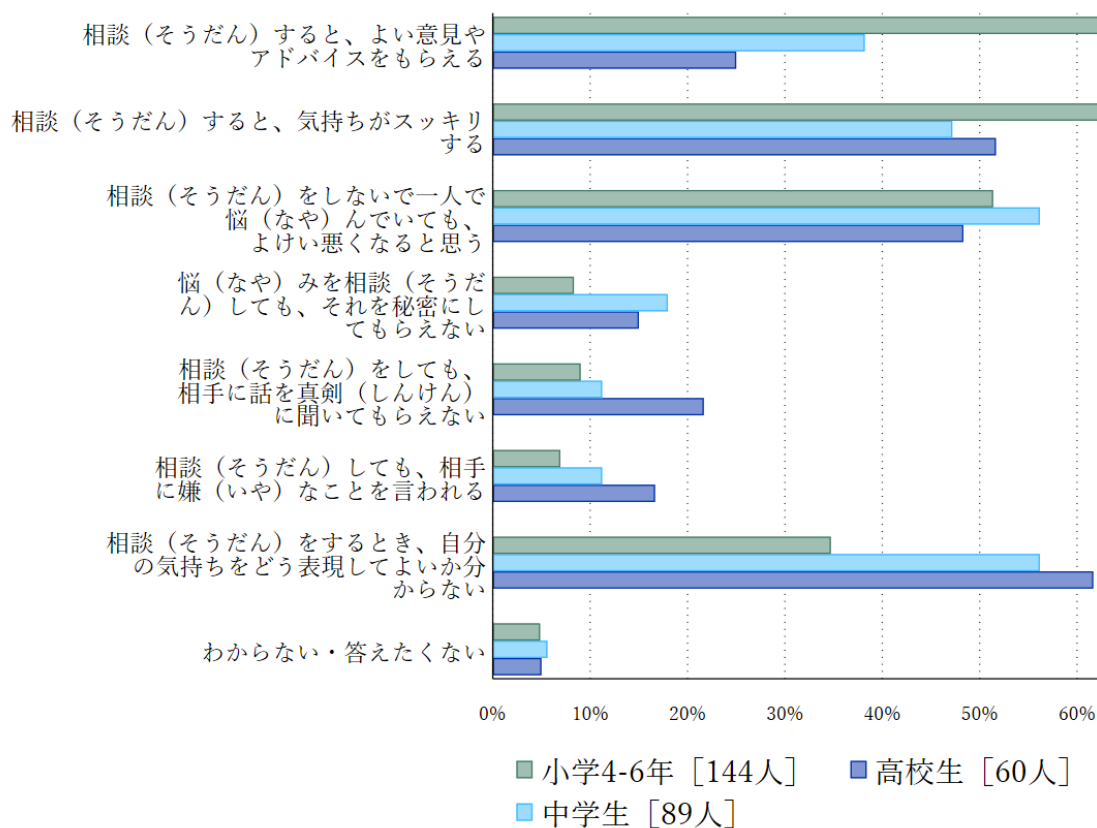


・小学4～6年生では29%、中高生では50%が、「誰にも相談しないでもう少し自分で様子を見る」と回答した。

先行研究（Ando S, et al. J Affect Disord. 2018;238:359-365.）の著者から質問文の使用・一部改変の許可をいただき、作成しました。

原版の描写文から最後の1文「太郎君の家族や友達は、太郎君の最近の様子をとても心配しています。」を除いて（1）（2）を尋ね、（3）としてオリジナルの質問を追加しました。

(3) もしあなたが太郎君と同じ状況（じょうきょう）だったら、次のそれぞれの項目についてどう思いますか？あなたの考えにあてはまるものを全部えらんでください。



・全体では「相談（そうだん）すると、気持ちがスッキリする」は56%、「相談（そうだん）をしないで一人で悩（なや）んでいても、よけい悪くなると思う」は52%があてはまると回答した。

・「相談（そうだん）すると、よい意見やアドバイスもらえる」は小学4-6年では63%があてはまると回答したのに対し、中高生であてはまると回答したのは33%にとどまった。

・「相談（そうだん）をするとき、自分の気持ちをどう表現してよいか分からない」は小学4-6年では35%があてはまると回答したのに対し、中高生では58%があてはまると回答した。

・「悩（なや）みを相談（そうだん）しても、それを秘密にしてもらえない」、「相談（そうだん）をしても、相手に話を真剣（しんけん）に聞いてもらえない」、「相談（そうだん）しても、相手に嫌（いや）なことを言われる」は、いずれも小学4-6年と比べて中高生のほうがあてはまると回答した割合が大きかった。

お子さまに心配な様子がある時（小学生以上 保護者回答）

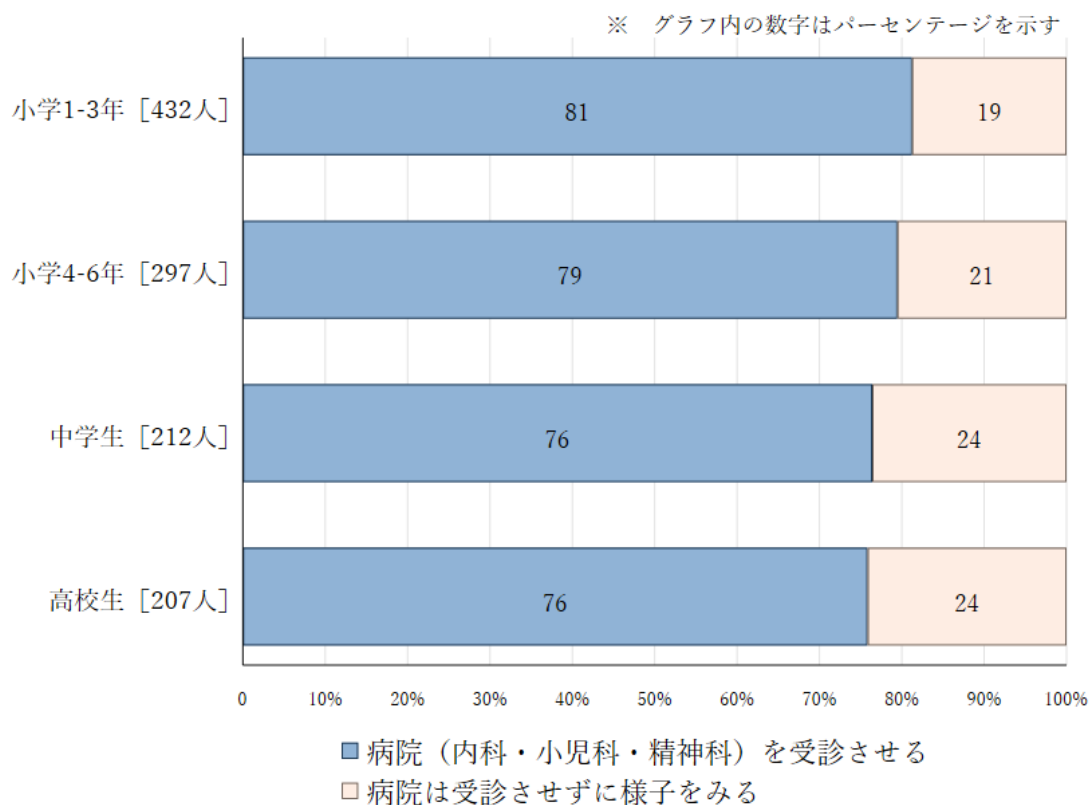
保護者 次の文章を読んで、質問に教えてください。

太郎君は、この数週間、いつもとちがって、なんだか悲しくなったり、辛い気持ちになったりすることが多くなりました。

いつも体がだるく、疲れていて、夜はしっかり眠ることができなくなっています。あまり食欲もなく、体もやせてきています。勉強も手につかず、成績も落ちてきました。

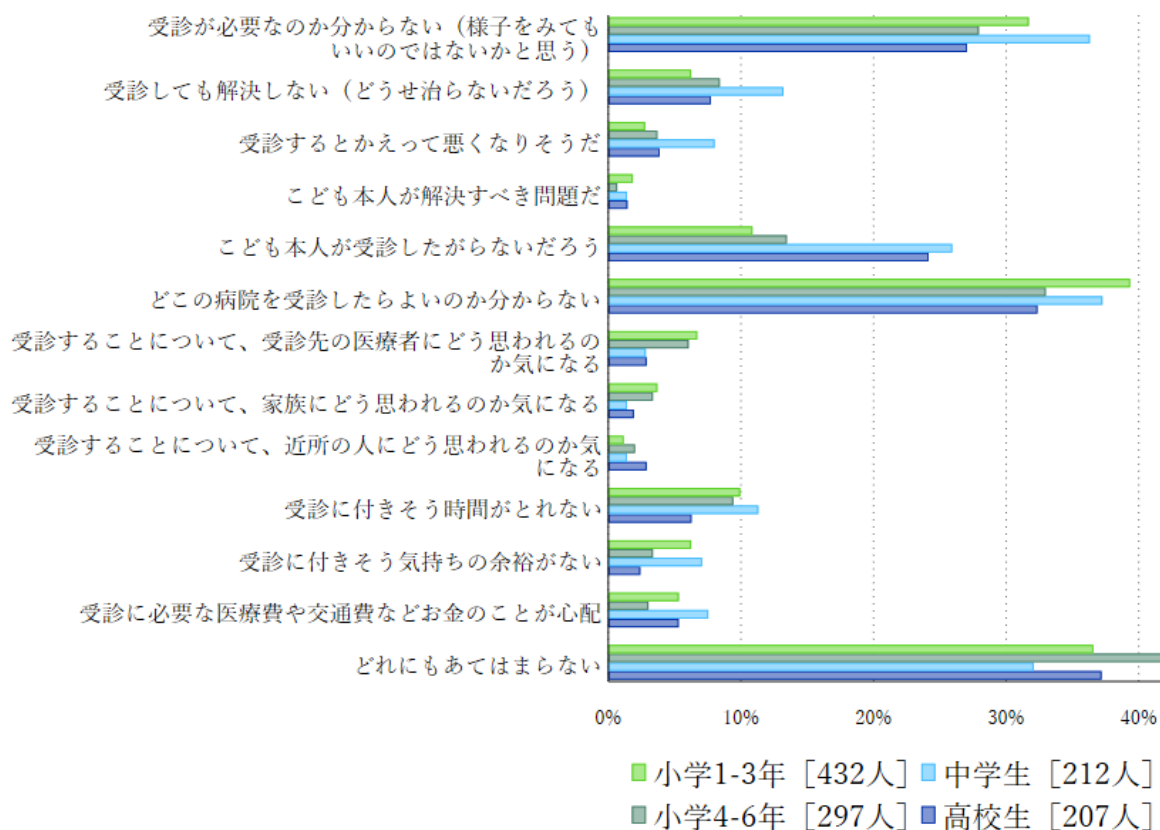
決めなくてはいけないことも、なかなか決められず、これまでできていた毎日の勉強や習い事などが、とてもつらく感じるようになってきています。太郎君の先生や友達も、太郎君の最近の様子をととても心配しています。

(1) あなたのお子さまが太郎君と同じ状況だったら、どうすると思いますか？



・79%が「病院（内科・小児科・精神科）を受診させる」と回答した。

(2) 上の質問に回答した際に、どのような考えが思い浮かびましたか？あてはまるものをすべて選んでください。



・「どこの病院を受診したらよいか分からない」は36%、「受診が必要なのか分からない(様子を見てもいいのではないかと思う)」は31%、「子ども本人が受診したがるだろう」は17%であった。保護者回答全体の63%が、いずれか1つ以上あてはまると選択した。

※保護者への質問では、原版の描写文の最後の1文を「太郎君の先生や友達、太郎君の最近の様子をととても心配しています。」に変更して提示し、オリジナルの質問(1)(2)を尋ねました。

子どもの権利 4 コマ漫画

援助希求に関する設問の後には、こども・保護者ともに次の4コマ漫画を読んでいただいた。

わたしたち こどものことを、
おとなだけで決^きめないでほしいんだ

モヤ モヤ
モヤ
こどもにも 言^いいたいこと
いろいろあるのにさ...

じやん!
自由に意見^{いけん}をいったり、
参加^{さんか}したりすることは、
こどもみんなの権利^{けんり}だよ

※『子どもの権利条約^{けんにじょうやく}』にかかれています

きみにも、ぼくにも、チカラがあるんだ

じしん
自信^{じしん}をもってやってみようかな!

おとなは
こどもの意見^{いけん}をよーく聞いて、
こどもに一番^{いちばん}いいことを考えて、
こどもにちゃんと説明^{せつめい}しないと
いけないんだって～

こうなったらいいな! これはよかった!
さいきん 最近^{さいきん}こんなこと かんがえているんだ、など...

しんらい
信頼^{しんらい}できるおとな※に
ぜひお話し^{はな}してみてくださいね

アンケートでも
きかせてくれて
ありがとう☆

※ アンケートの最後^{さいご}やHPで
そうばんまどくち しょうかい
相談窓口^{さうだんまどくち}も紹介^{しょうかい}しています☆

ココメ X こども本部

こどもたちの声

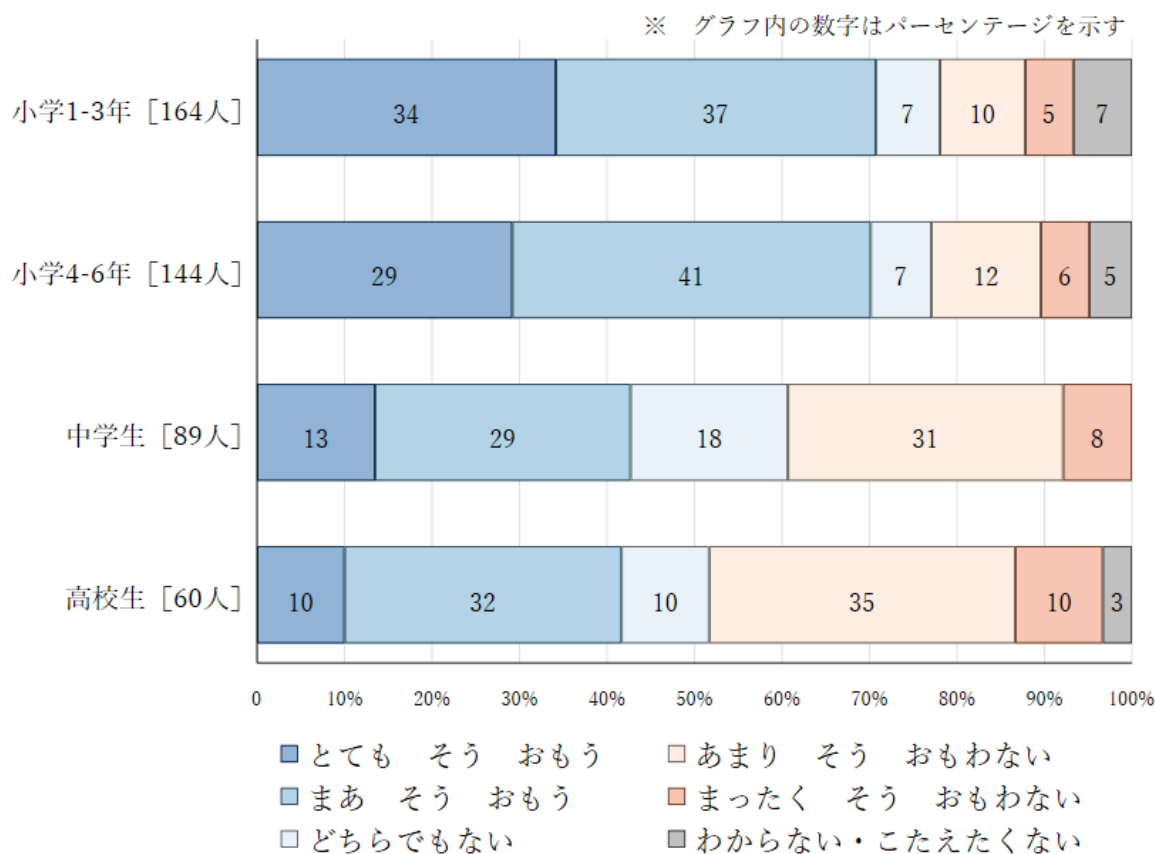
ここでは、すべて **こども** の回答を集計した。

こどもの意見は反映されているか

コロナによって、いろいろなことが変わりましたね。

(1) こどものことを決めるとき、おとなたちはこどもの気持ちや考えを、よく聞いていると思いますか？

【とてもそう思う, まあまあそう思う, どちらでもない, あまりそう思わない, 全くそう思わない, わからない・答えたくない】



・小学1-3年の15%、小学4-6年の18%、中高生の42%が「あまりそう思わない」または「全くそう思わない」と回答した。

大人たちに言いたい・伝えたいこと

ここでは、すべて **こども** の回答を集計した。

自由記載で尋ねた。記載された内容をカテゴリ一別にまとめて抽出し、以下に記述する。

(一部抜粋)

※たくさんのお回答をいただいたため、紹介できるのは一部のみになっています。

(2) おとながこどもの気持ちや考えをよく聞いていると思ったことがあれば、①だけが、②どのようにしてくれたときかを教えてください。

母親、父親、両親、家族

【話をよく聴いてくれたとき】

- ・私が思いどおりにいなくて、少し、イライラしていた時に、よく、聞いてくれた。(小学2年生/女/大阪府)
- ・わたしの意見を全部聞いてから、ママが話してくれた。(小学4年生/女/神奈川県)
- ・ぼくの顔をみてちゃんと話を聞いてくれる(小学5年生/男/山梨県)
- ・きいてほしいときに、ゆっくりきいてくれる(小学2年生/男/和歌山県)
- ・怒らずに悪いことを聞いてくれた時(小学4年生/男/東京都)

【行動してくれたとき】

- ・優しくしてくれたとき。よしよしとか。(小学1年生/男/埼玉県)
- ・危ないことをダメと怒ってくれた(小学3年生/女/福岡県)
- ・コロナがはやっていてもできるあそびにさそってくれたとき(小学2年生/男/富山県)
- ・困ってる事に対して手を差し伸べた時(小学1年生/女/兵庫県)
- ・学校や他の大人に伝えてなんとかしてくれた(小学5年生/男/大阪府)

【尊重してくれたとき】

- ・おみせでクラスのためにグッズをかうときに、わたしのきもちをそんちょうして、いっしょにえらんでくれたとき(小学2年生/女/東京都)
- ・ワクチンを打つのを決めさせてくれた時(中学2年生/女/兵庫県)
- ・頭ごなしに勉強と言われなかった(高校1年生(15歳相当)/男/東京都)

- ・進路の相談時 行きたいところに行くのが1番だと言ってくれた時（高校1年生（15歳相当）/女/神奈川県）

【気にかけてくれたとき】

- ・マスクくるしいからはずしていいよと言ってくれた。（小学1年生/男/大阪府）
- ・少し具合が悪かったときに、私の具合が悪そうなのを気づいてくれた（高校3年生（17歳相当）/女/静岡県）
- ・いつも声をかけてくれる（高校1年生（15歳相当）/女/石川県）

【その他】

- ・いつも（小学1年生/女/東京都）
- ・わからない（小学1年生/女/和歌山県）
- ・お勉強をしているとき。（小学4年生/女/宮崎県）

先生、学校

【話をよく聴いてくれたとき】

- ・相談だったりただの話の時とか（小学5年生/男/高知県）
- ・大変だよねと共感してくれた。コロナ関係で非常識な一部の大人の愚痴を言った時も受け止めてくれた。（中学3年生/女/わからない・答えたくない）

【行動してくれたとき】

- ・私の意見を聞いて改善してくれたとき（小学6年生/女/埼玉県）
- ・毎月面談をしてくださる（中学2年生/男/大阪府）

【尊重してくれたとき】

- ・どうしたいかを聞いてくれた時（小学5年生/女/兵庫県）
- ・進路（高校決め）で困ってる時とか私の意見を取り入れながらアドバイスくれたとき。（中学3年生/女/静岡県）

【その他】

- ・こまったとき（小学2年生/男/京都府）
- ・お腹がいたいとき（小学6年生/女/大阪府）

その他（大人、友人、周囲の人、みんな、いない等）

- ・優しく話を聞いてくれたとき（小学4年生/女/群馬県）
- ・元気をつけてくれる（小学3年生/男/山口県）
- ・一緒に遊んでくれた時（小学2年生/男/神奈川県）
- ・特にない（高校1年生（15歳相当）/女/東京都）

大人たちに望むこと

- (3) おとながこどもの気持ちや考えをよく聞くために、「もっとこうしてほしい」ということがあれば、①だれに、②どのようにしてほしいかを教えてください。

母親、父親、両親、家族

【話を聴いてくれるときは…】

- ・もっと熱心に話を聞いてほしい（中学1年生/女/静岡県）
- ・途中で遮って否定しないでほしい（中学2年生/女/神奈川県）
- ・嫌がらないではなしをきいてほしい（小学3年生/男/東京都）
- ・おはなしをきいてと行ったときにならずきいてほしい（小学1年生/女/神奈川県）

【接してくれるときは…】

- ・いつもやさしくして欲しい（小学2年生/女/東京都）
- ・機嫌良くして欲しい（高校3年生（17歳相当）/女/静岡県）
- ・優しく、怒る時に、怒鳴らないで理由を言ってわかるように優しく言って欲しい（小学3年生/女/北海道）
- ・スマホ見ないでほしい（小学4年生/女/埼玉県）

【尊重してほしい】

- ・自分がやりたいようにやらせてほしい。強制しないでほしい。（小学6年生/女/千葉県）
- ・もっとほめてほしい（小学1年生/女/東京都）
- ・自分の意見を聞き入れてくれないから。その部分を直して欲しい。（小学6年生/男/東京都）

- ・人の物差しを勉強だけにしないでほしい。勉強や運動する事を押し付けられるのがうんざり。（中学1年生/男/秋田県）
- ・言いたくないことは言いたくないと言った時点で、それをしっかり受け止めてほしい。余計に傷つくから。それに聞く気があるなら優先してほしい。確かに大事なところはあるから最優先に、とは言わないけど、後回しにしないでほしい（小学4年生/女/神奈川県）

【時間を共有してほしい】

- ・もっと家にいて欲しい。（小学2年生/男/愛知県）
- ・お家に一緒にいてほしい（小学5年生/男/山梨県）
- ・一緒に遊んで欲しい（小学1年生/女/和歌山県）

【その他】

- ・お金が欲しい（小学6年生/男/東京都）
- ・ユーチューブのせいげんをなくしてほしい（小学3年生/女/東京都）

先生、学校

【話を聴いてくれるときは…】

- ・話をきちんと聞いて欲しい。先生が忙しそう（小学4年生/男/群馬県）
- ・もっと、子どもの考えを、聞いて欲しい。（小学4年生/男/大分県）
- ・話を沢山聞いて欲しい（高校3年生（17歳相当）/男/静岡県）

【接してくれるときは…】

- ・怒鳴らないでほしい（小学4年生/男/千葉県）
- ・もっと真剣に取り組んで欲しい（高校3年生（17歳相当）/男/東京都）
- ・あまり気をつかいすぎないようにしてほしい（中学2年生/男/大阪府）

【尊重してほしい】

- ・強要するような、教育をしないで、子どもの気持ちに寄り添う（小学1年生/女/兵庫県）
- ・みんな違うことを思っているとわかってほしい。一人一人の気持ちを尊重してほしい。（中学1年生/男/神奈川県）
- ・子供はこう思っているだろう、というような思い込みをなくしてほしい。極度に可哀想だと思ってもらいたくない。（高校2年生（16歳相当）/女/愛知県）

【機会や環境を作ってほしい】

- ・気軽に意見を述べられるように学校などに匿名でも大丈夫な目安箱のようなものを置く
(中学3年生/男/東京都)
- ・まずは先生同士が連携をとれるようにして欲しい。そうでないと、子どもに何か働きかけるのはうまくいかないと思う (中学2年生/男/大阪府)
- ・自分で言葉で表現したり説明するのが難しい場合に、パターンを出して選ばせてほしい。
(小学3年生/女/大阪府)

【感染対策をやめてほしい】

- ・まずくをやめてほしい (小学1年生/男/大阪府)
- ・給食の時におしゃべりしていいよって言ってほしい (小学4年生/男/愛媛県)
- ・マスクなんかゴミバコにすてちゃえ！ってほしい。演奏会もマラソン大会もしよう！ってやってほしい (小学5年生/男/奈良県)

【その他】

- ・じゅぎょうの時間をもっととってほしい (小学4年生/その他・答えたくない/鳥取県)
- ・自分が子どもの頃どう思ったかを思い出してほしい (高校3年生 (17歳相当) /男/東京都)

国・政治家

【尊重してほしい】

- ・子供達の意見を政治に取り入れて欲しい (小学4年生/女/千葉県)
- ・大人だけで解決されるのが不満。政治に参加できない私たちのことを勝手に決めないでほしい。(中学3年生/女/埼玉県)
- ・子どもの気持ちをもっと考えて欲しい。失業した人や母子父子家庭への支援をもっと充実させて欲しい。お金を配っても改善されるわけじゃない。配られたお金を使えるような家庭状況ではない。(中学2年生/女/兵庫県)

【機会や環境を作ってほしい】

- ・大人たちだけでいろいろなことを決めるのではなく、こどもにも意見を言えるようにしてほしい。(中学1年生/女/新潟県)
- ・子供の死因1位が自殺のこの世界を子供も生きやすい国にして欲しい (小学5年生/女/神奈川県)

【感染対策について】

- ・早くワクチンを打てるようにしてほしいです（小学1年生/男/千葉県）
- ・がまんばかりしているのもうしなくていいように前みたいにもどしてほしい（小学4年生/男/大阪府）
- ・子供の青春とか受験とか大切なものを制限しすぎないで、青春を謳歌した大人に子供を守るために制限をしてほしい（高校3年生（17歳相当）/女/東京都）

その他（大人、友人、周囲の人、みんな、いない等）

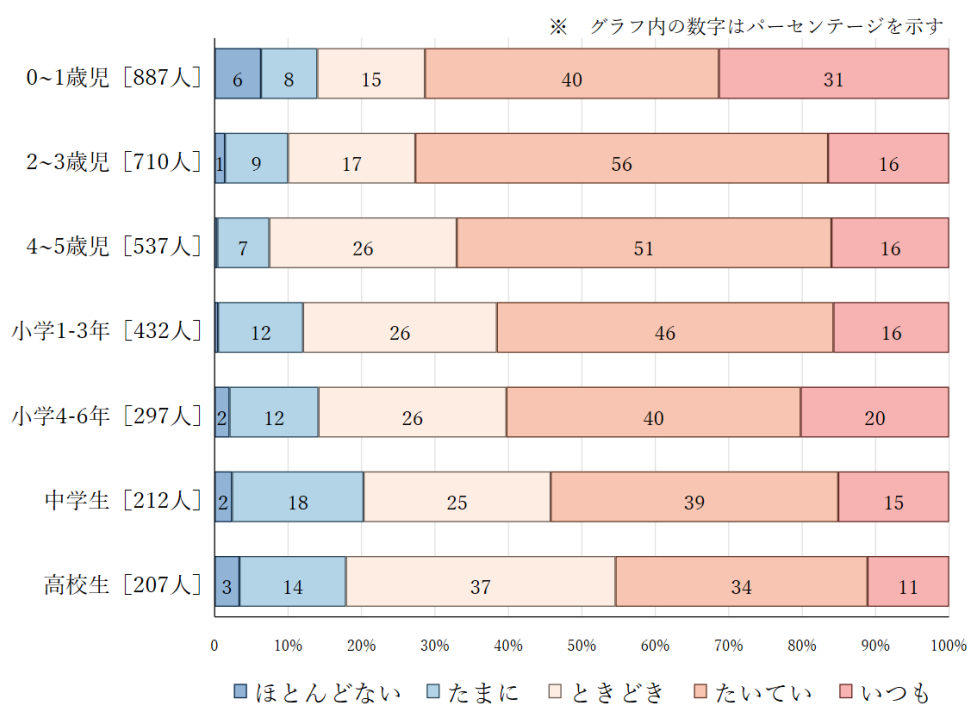
- ・適当に話を聞かず真剣に聞いて、その相談に対して真面目に向き合って欲しい（中学3年生/女/東京都）
- ・気持ちを理解してもらいたい。（小学5年生/女/東京都）
- ・わからない（小学2年生/男/京都府）
- ・もっと意見を出しやすい空気感にしてほしい。そして、大人からこどもに話しかけてくれると言いやすい。（小学6年生/男/東京都）
- ・何もしなくていい（小学4年生/女/神奈川県）

保護者様（回答者）とお子さまとの関わり

好ましい関わり

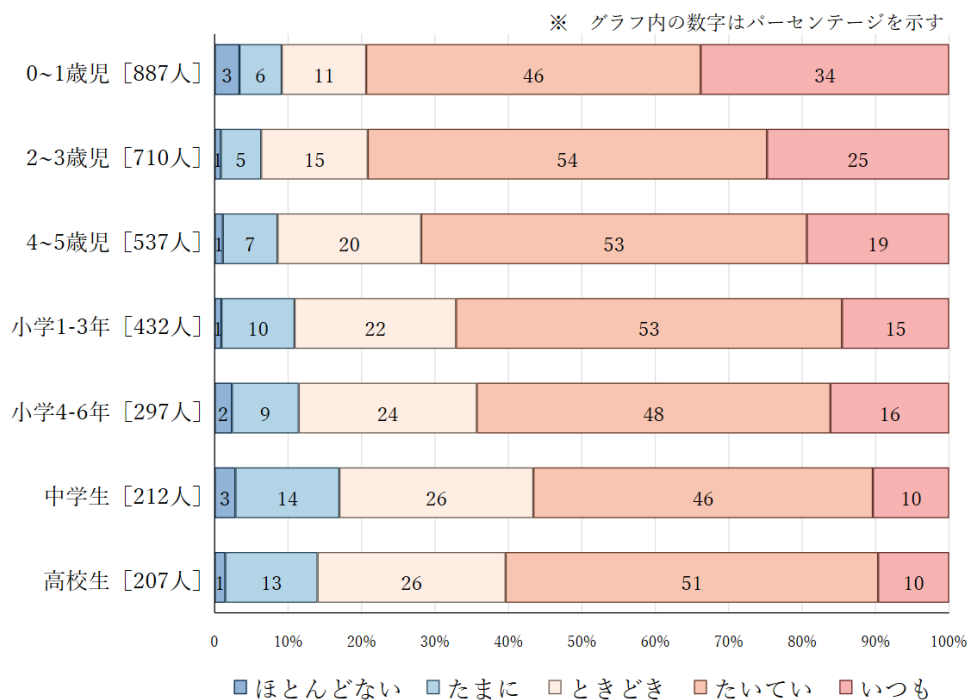
保護者 この1ヶ月間を思い出して、あなたのお子さまと接する際に、次のそれぞれのことをどれくらい心がけたり実施したりしていますか？

(1) こどもが考えや気持ちを話したり（伝えたり）できるように、質問したり確かめたりする。



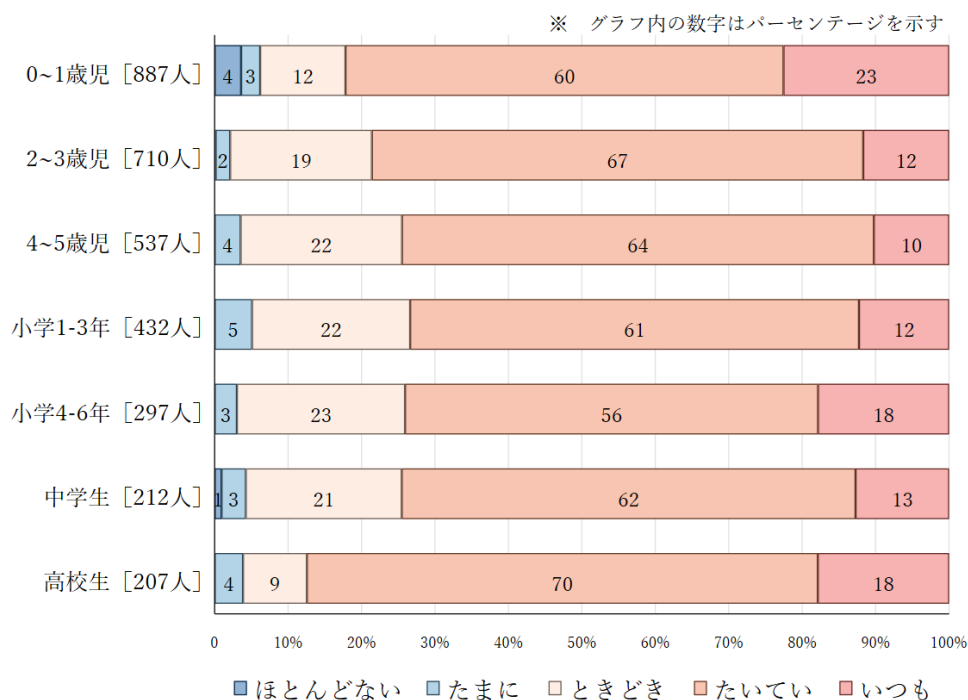
・未就園児・未就学児・小学生は6割以上、中高生は約5割の保護者が「たいてい」「いつも」と回答した。

(2) こどもが表現した気持ちに、「そうだね、～の気持ちがしたんだね」などと、気持ちを否定せずに共感する



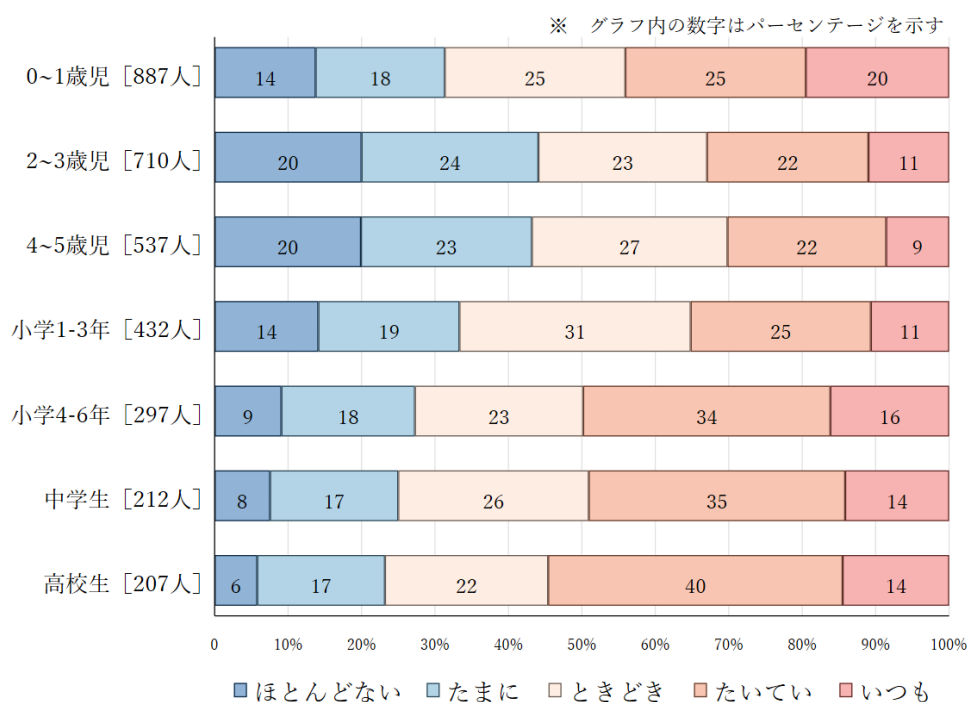
・全体の7割以上の保護者が「たいてい」「いつも」と回答した。

(3) 子どもが考えや願い、やりたいことなどを伝えたとき、できるだけ取り入れる



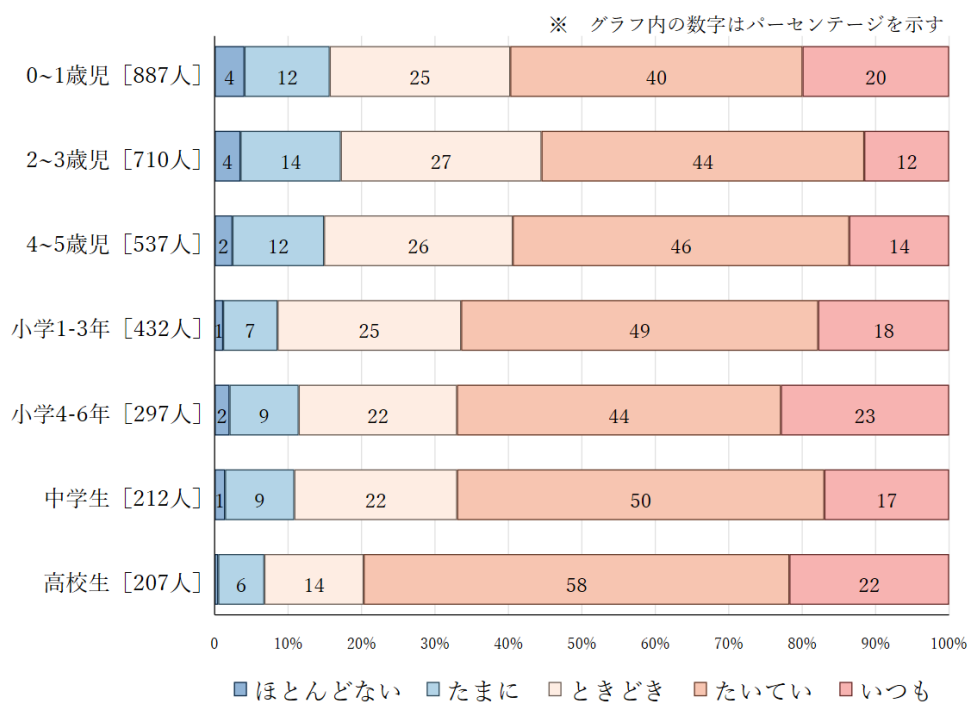
・全体の7割以上の保護者が「たいてい」「いつも」と回答した。

(4) これからのことについて、家族で一緒に話し合うようにしていた



・未就学児・小学1-3年生は約3-4割、小学4-6年・中高生は約5割の保護者が「たいてい」「いつも」と回答した。

(5) 困りごとや問題があっても、なるべく建設的に考えるようにしていた



・未就学児・小学生・中学生は約6-7割、高校生は8割の保護者が「たいてい」「いつも」と回答した。

保護者のメンタルヘルス

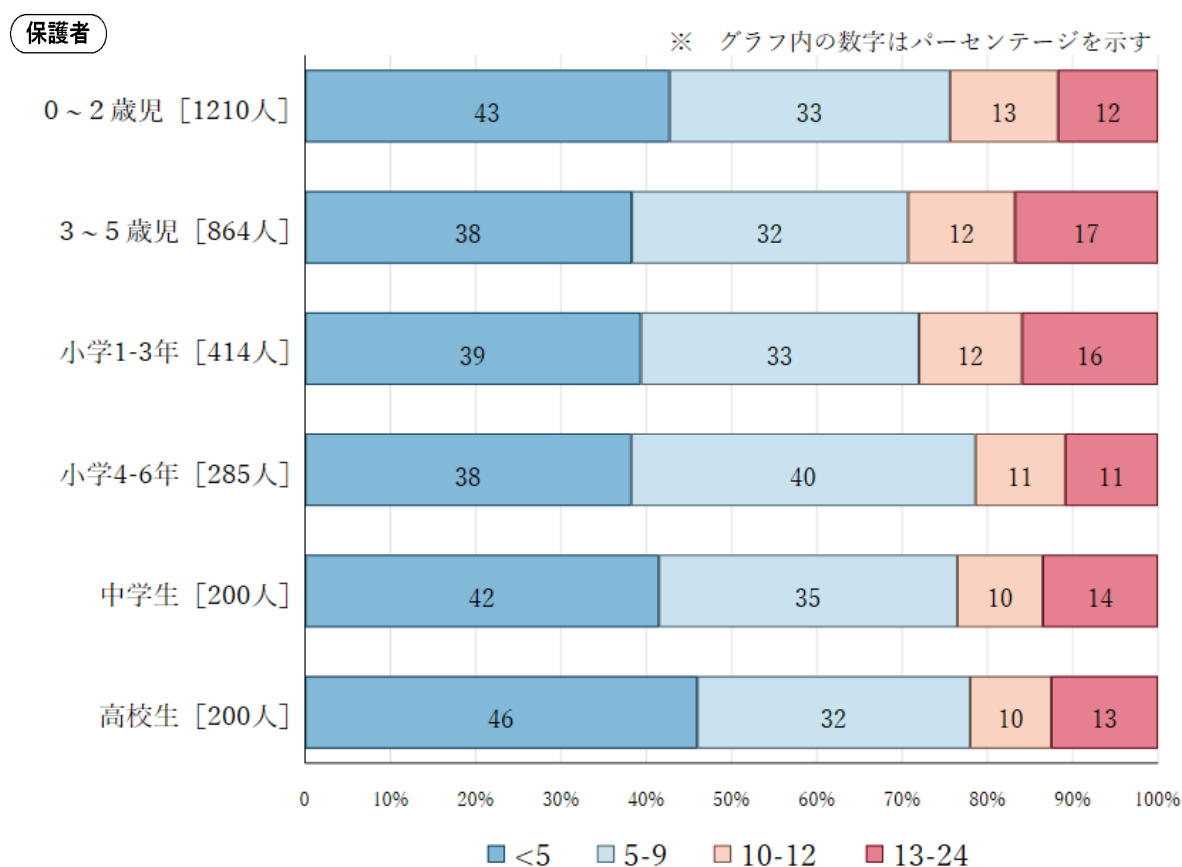
ここでは、すべて **保護者** の回答を集計した。

こころの状態

日本語版「K6」尺度により、保護者自身のこころの状態を尋ねた。直近1ヶ月について、6つの質問について、5段階[全くない, 少しだけ, ときどき, たいてい, いつも]で尋ね、点数化した。

合計点数は0~24点で、高いほど、精神的な問題がより重い可能性があるとしている。

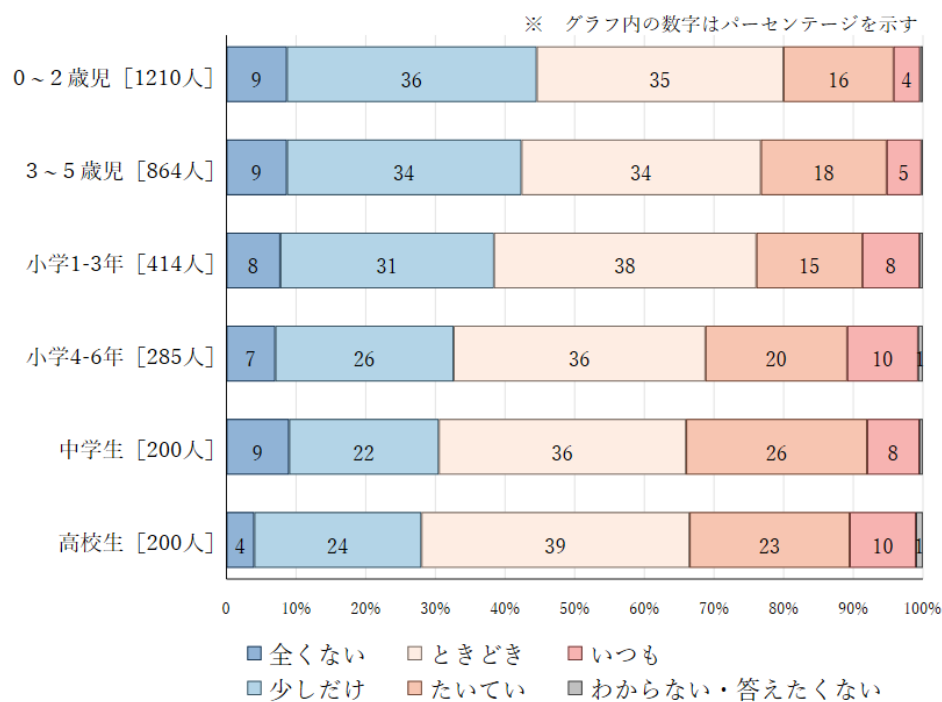
- ・ 5点以上：中等度(こころに何らかの負担がある状態)
- ・ 10点以上：高度(気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている状態)
- ・ 13点以上：極高度(深刻なこころの状態のおそれがある)



- ・ K6尺度で5点以上が全体の59%を占めた。
- ・ 極高度(深刻なこころの状態のおそれがある)とされる13点以上は全体の14%であった。

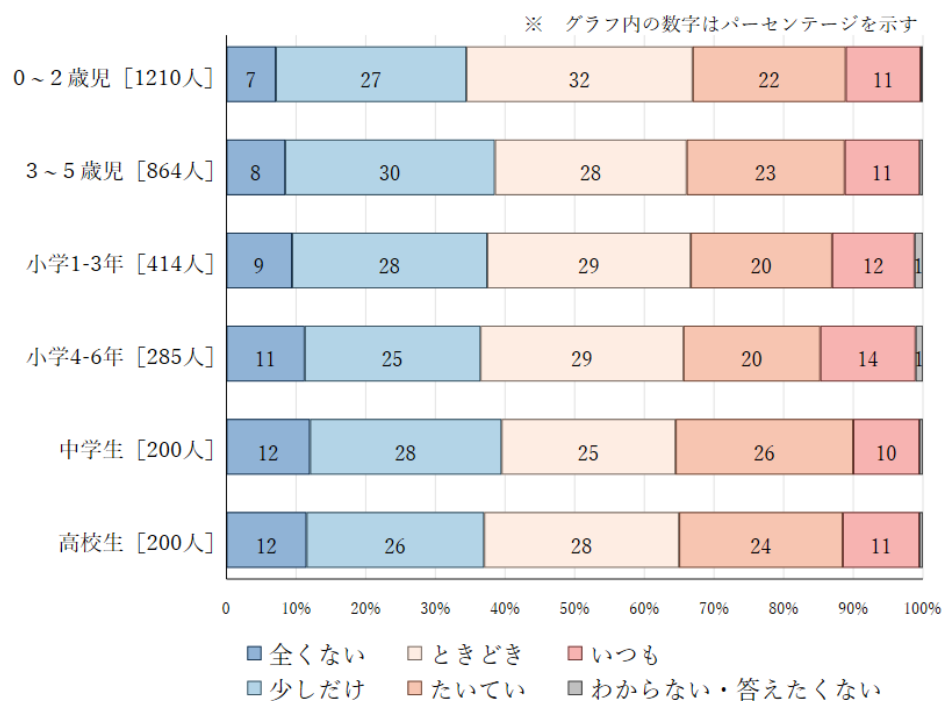
保護者のストレスケア

リラックスする時間をとるなど、あなたご自身のストレスに対処することがありましたか？



・全体の8%が「全くない」と回答した。

近しいと感じる・信頼できる人と、望む程度の連絡をとっていましたか？



・全体の9%が「全くない」と回答した。

自由記載

こどもたちの声

ここでは、すべて **こども** の回答を集計した。

自由記載で尋ねた。記載された内容をカテゴリ一別にまとめて抽出し、以下に記述する。

(一部抜粋)

※たくさんのお返事をいただいたため、紹介できるのは一部のみになっています。

このアンケートについて、気になることや言いたいことがあれば、教えてください。

【アンケートに関して】

- ・このアンケートは誰が見るのですか？
- ・アンケートにこたえてころがるなくなった
- ・大人がなんでこんなことを聞くのか、不思議でした。
- ・他のこどもはどう思っているのだろうか？
- ・今、こうやってアンケートを答えているけど果たして自分の意見を見てくれているのかがまだ分かりません。
- ・イラストがやわらかい雰囲気なのは良いと思った。ただ、これを見たから「子どもの権利」とかを理解して行動に移す子どもってどれぐらいいるのかなとも思った。自分の思いを言語化できらひ子ばかりではないから。
- ・毎回、答えていますがいろんなことを正直に言えるのでうれしい。
- ・誰が言ったか内緒にして欲しい
- ・誘導尋問のように感じてしまった。不満か、疲れてるか、と聞かれたら、そう答えてしまうと思う。

【新型コロナウイルス】

- ・どうしてコロナのせかいになったかしりたい
- ・コロナは、いつ終わるの？
- ・最近、新たな変異株が出てきて、それで、それになっちゃった人の住所(都道府県のみ)を公開していたり、その県の人が会見を開いたりしていたりして、そのなってしまった人がかわいそうだからやめて欲しいと思いました。
- ・かぜをひいたり、せきをしてもコロナとっていやな顔をしないでほしい
- ・いつになったら、マスク外せますか？

【学校】

- ・コロナにかかって、とても怖い。とても大変だった。勉強もできない。わからないのに、まわりはどんどん勉強してる。
- ・きゅうしょくのときともだちとはなしてたべたい
- ・学校の先生が叫んでばかりで疲れます
- ・コロナはマスクはずしたら終わるから、みんなはずしてほしい。たのしく給食たべたい。
- ・このアンケートを全部の学校でやってほしいとおもった
- ・ころなのまえの小学校のほうが楽しかった

【その他】

- ・そんなに大人に話をきいてもらっていないとは思わない
- ・つらい時つらいつって言っても大人の人がつらくて聞いてくれないこともあると思います。だれに相談すればいいかもっとわかるといいと思います。
- ・選択して回答する質問が多いので短い時間で出来て良いと思います。そしてこのアンケートについてではないかもしれませんが、「最近はおミクロンの感染者が増えていて、新型コロナウイルスのワクチンをうっていても感染する。しかしワクチンの効果はあるようだ。」との事をニュースで知りました。私は2回目のワクチンを早くうちたいと思いました。そして、少しおミクロンの事が心配になりました。しかし毎日ほとんどおミクロンの事でストレスを感じずに過ごしています。
- ・あの一、僕の言えることは、頑張ってください！！この言葉だけです！

保護者の声

ここでは、すべて **保護者** の回答を集計した。

自由記載で尋ねた。記載された内容をカテゴリー別にまとめて抽出し、以下に記述する。

(一部抜粋)

※たくさんの回答をいただいたため、紹介できるのは一部のみになっています。

アンケートについて、ご意見やご要望がありましたらご記入ください。

【アンケートに関して】

- ・子どもがアンケートに回答することで、学校、家庭以外にも子どもを支援してくれる場があることを知る機会になっていて、良いと思う。
- ・このアンケートを毎回やっているだけで、子どもは「自分のことを一生懸命考えてくれてる人がある」という実感が持てるようで、気のせいかもしれないですがアンケート後は少し落ち着いているように見えます。
- ・毎日の家事と育児を限られた時間の中でやっていくだけで必死なのに「子どもの意見をききましょう」と言われたらお説教としか感じない。アンケートに答えたことで自分の気持ちが沈んでしまったので見なければよかったと思っている。
- ・子どもの権利についての漫画、とても分かりやすく広く周知されれば良いなと思いました。祖父母世代にも教育のリテラシーを上げるために何かしていただけたら嬉しいです。
- ・調査結果に先ほどの子供が精神的なことから病気になったときに何科にかかれば良いか教えてほしい。または、小児科にかかったらこのような対処をされる、精神科ならこのような対処等、受診したらどういう対応がされるのか知りたい。また 13 歳だと精神科は大人の病院ですか。
- ・持病や、発達障害などがある子どもたちの心の変化のデータ、また、その保護者の負担の変化のデータなども調べてほしいと思う。我が子は、環境の変化に非常にストレスを感じる子のため、このコロナ禍で、こどものメンタルの健康を保つには、大変苦労した。こどもには持病もあり、色々なことに神経を使い、母はとても疲弊、消耗した日々だった。

【新型コロナウイルス】

- ・コロナで人との付き合いが、辛くなりました。人それぞれ、コロナに対する意識も違いますし、ワクチンも怖いし、コロナも怖いし、これからが不安です。

- ・5歳の娘がよく「ママが死んだら、わたしも一緒に天国に行く」といいます。「ママが死んだら私、生きていけない」と言います。コロナで私が死んでしまうのでは、と心配しているのかな、と気になります。
- ・コロナ禍は残念ながらまだ続くと考えています。いつか、希望することもたちみんながワクチンを打って、コロナはちょっと変わった風邪程度の認識になる日までこの活動を続けてほしいです。当事者としてのこどもたちの声を拾い続けてほしいです。
- ・初めての妊娠出産がコロナ禍で体調を崩しました。病院にかかり良くなりましたが、今後も子供達の生活が制限されたり、うちの子供はマスク姿の大人しか生まれてから見てません。不安はあります。唯一良かったのはリモート勤務ができて夫も家にいることが増え家事を分担できたことです。

【生活】

- ・マスクを健康上の理由で付けられないのに、色んな場所で強制されて鬱になりそうです。
- ・マスクが煩わしい。けれど、マスクをデコレーションしたり、服とコーディネートしたり、子供たちはとても前向き。出来る範囲は限られますが、工夫して楽しみたいです。
- ・子供ばかりじゃなく旦那が常に在宅リモートワークの専業主婦のストレスがヤバイ。
- ・子どもは生まれる少し前からコロナ禍になりコロナ前を知りません。親以外の素顔をほとんど見たこともなく、何も制限がなく子育て出来ていたお母さん達が羨ましく思うことがあります。テレビを見れば煽る専門家しかいなく、コロナだけではなく、今年はインフルエンザワクチンまで足りない、大流行が起きるなど言われたたださえ子育ては悩みが多いのに、追い詰められるように感じました。もう少し心穏やかに子育てをしたいと感じています。
- ・子供の成長過程に関してコロナ前より体験したり関わったりする機会が奪われてしまうことが気の毒でなりません。できる範囲で「はじめて」に触れたりしていますが、今後の成長に不利があると嫌だなと思っています。

【園・学校】

- ・コロナの影響か否か不明ですが、現在、不登校となっている子供に対して、このアンケートを答えてもらうのが、子供の考えを聴くよい機会となりました。
- ・自分以外がマスクだらけの中にいると1番下の幼稚園の子どもがチック症状が出るようになった。私がマスクをすると更に酷く症状が出るので極力しないようにしているが、強要される場面も多く 社会の不寛容さや心無さに傷つきます。

- ・コロナで子供のイベント中止縮小、過剰対策で息苦しい日々がもう2年も続こうとしている。保育士や教職員の感染対策による仕事の負担も膨大と思われ、よく連絡ミスがおこるようになった。いい加減子供が可哀想。先日も小学生がマスクしたまま体育をした。いい加減おかしいことに気づいて欲しい。早く子供には今まで通りの生活を返して。
- ・マスクの強要や行事の中止が長期に続いており、子どもの心身の悪影響が本当に心配。リスクが低い子どもには感染対策を緩和してほしい。子どもの心が病みます。

【社会・政策】

- ・所得制限ひっかかる家庭で政府から金銭的に余裕はあるように見えてるようですが、精神的には全く余裕はありません。働くのに精一杯で子供との時間とか向き合う時間など、クタクタでとれないです。子供が発達障害なのもあり、普通の子以上にお金もかかるので必死です。かといって、発達障害に対しても金銭的な補助はないので自力で働くのみです。そんな現状を伝えていただきたいです
- ・子育て世帯の要望を聞いてくれることもなく、説明会もなく、情報収集に困っています。産後仕事復帰の目処、見通しが立たないことが解消され、住みやすくなって欲しいです。子育て世帯以外の方々に子育て世帯への理解を深めてもらえたらすごく嬉しいです。
- ・保育士さんが子どもに関わることを共有して下さり、子どもと密に関わる人が増えた時の安心感は、精神的に楽になりました。子どもに関わることを、社会全体で支えていけると、子ども達も親ももっと安心して生きていけるのかなと思います。
- ・こどもの一年は、おとなの一年よりもずっと貴重で、沢山成長したり沢山失敗したりしてほしいと願っています。にも関わらず、行事のほとんどが中止になり、保育園の中に入ることも許されず（保護者が）、さまざまな機会が失われています。政治が、大人が、子どもの権利をないがしろにしてないか、侵害していないか、憤りを感じる日々です。
- ・支援先もたくさんあるようですが、情報が分散されていて探すことが大変です。

【その他】

- ・まだ4か月ですが、こどもの話に耳を傾けて関わられるようになりたいと思いました。感情にムラができないようになりたい。
- ・このLINEからの報告が昨年来の嫌なニュースから沸々と出てくる悪い気分を一掃してくれました。よその子供のそのままの意見を聞かせてもらい、家でもそのことについて子供と話すこともできました。まだまだしんどい人もいます。よろしく願います。

おわりに

新型コロナウイルス感染第6波直前に実施した、第7回コロナ×こどもアンケートの結果をご報告いたしました。ご協力くださったお子さま・保護者の方に感謝申し上げます。

今回の調査でも回答くださったみなさまから様々なことを教えていただきましたが、とりわけ、「（自分が重いうつ症状がでたら）誰にも相談せずに様子を見る」と回答されたお子さまが少なくなく、こどもたちが自らSOSを出すことの難しさが浮き彫りになりました。相談しづらい背景に、どのようにSOSを出したらよいか分からず躊躇してしまう、おとな側がこどものSOSを受けとめる姿勢に問題がある、といった課題があることも分かりました。また、保護者側も、こどものうつ症状に気付いたときに「様子を見る」と回答された方が少なくなく、その背景として、受診が必要か分からない、どこを受診したらよいか分からない、といった課題があることが分かりました。調査で提示した「太郎君」は典型的なうつ症状があり、本人や家族だけで様子を見るのはとても危険な状態です。もしこのようなこどもを見つけたら、家庭の中で解決しようとせず、「子どもの心の診療医」やスクールカウンセラー、あるいは精神福祉保健センターの窓口などに相談していただきたいと思います。学校の先生方など、保護者以外のおとなの方が、こどもの様子の変化（これも重要なSOSです！）に気付くコツや気づいたときの対応について理解し習得しておくことも、こどものメンタルヘルス不調の早期発見・治療に重要な役割を果たします。

コロナ×こども本部では、【コロナ×こどもアンケート】をこれまで7回にわたり行ってまいりましたが、オンライン調査の限界を踏まえ、今回の調査は郵送形式の調査も並行して実施いたしました。郵送調査は、ランダムに選ばれたお子さま・保護者の方に調査への協力を依頼するもので、コロナ×こどもアンケートとは結果に多少の相違があります（詳細は当センタープレスリリース等をご覧ください）。両調査の特徴を活かしながら、これからもコロナ禍におけるこどもたちや保護者の方々の声を社会に届けていきたいと考えています。

今後ともよろしく願いいたします。

2022年3月23日

国立成育医療研究センター コロナ×こども本部 一同
co_kodomo@ncchd.go.jp